

へいせい ねん ど
平成30年度

さっぽろ し じりつ し えんきょう ぎ かい
札幌市自立支援協議会

ねんかんかつどうほうこくしょ
年間活動報告書

べっさつ ぼうさい かん
【別冊：防災に関するまとめ】

さっぽろ し じりつ し えんきょう ぎ かい
札幌市自立支援協議会

れいわ がんねん がつ
令和元年5月

SAPPORO

はじめに

さっぽろしじりつしえんきょうぎかい ぜん く ちいきぶかい せんもんぶかい
札幌市自立支援協議会の全10区の地域部会と3専門部会

は、それぞれの部会にて、平成30年9月6日に発生した北

海道胆振東部地震について、災害発生時に「できたこと」

や「課題」、「あったらよかったもの」などを振り返り、ま

とめを作成しました。

かくぶかい よ ほうこくしょ けいさい
各部会から寄せられた報告書をそのまま掲載しているた

め、部会ごとに様式が異なり、本文中はルビなしであるこ

とをご了承ください。

さっぽろしじりつしえんきょうぎかい
札幌市自立支援協議会

もくじ 目次

1	ちゅうおうく ちいき ぶかい 中央区地域部会	1
2	きたく ちいき ぶかい 北区地域部会	9
3	ひがしく ちいき ぶかい 東区地域部会	13
4	しろいしく ちいき ぶかい 白石区地域部会	14
5	あつべつく ちいき ぶかい 厚別区地域部会	15
6	とよひらく ちいき ぶかい 豊平区地域部会	28
7	きよたく ちいき ぶかい 清田区地域部会	33
8	みなみく ちいき ぶかい 南区地域部会	42
9	にしく ちいき ぶかい 西区地域部会	44
10	ていねく ちいき ぶかい 手稲区地域部会	56
11	しゅうろう し えん すい しん ぶ かい 就労支援推進部会	59
12	そうだん し えん ぶ かい 相談支援部会	60
13	こ ぶ かい 子ども部会	65

【中央区地域部会】

平成30年10月17日 第77回中央区地域部会定例会（平成30年度第5回） 「災害対策マニュアル作成に向けて～北海道胆振東部地震の振り返り」

～グループワークで挙げられた「課題・あったらよかったもの」と「できたこと」についてのまとめ～
（詳細は、別紙「グループワーク意見集計」をご覧ください）

1 停電

建物に係る影響 事業所の電動シャッターやエレベーターが使えず業務が行えなかったことが課題として挙げられたほか、職員・利用者の自宅のエレベーターが停止したことが問題として挙げられた。

備え 電気を使用する物品として、下記の備えが課題として挙げられた

懐中電灯、電池、携帯用充電器、LEDランタン、ラジオ、自家発電機（予備電源）

また、予備電源だけでは不足することや、IHの使用ができないこと、備えてある防災用品の把握も課題として挙げられた。

情報連絡 個人又は社用携帯での連絡がなされたが、充電面での課題が挙げられた。対応として、ノートPCや車での充電や、LINE連絡による節電などが挙げられた。

職員・利用者の連絡先がPCなどに保管されている場合は参照ができず、紙ベースでの保有が重要との意見が出された。

サービス提供 冷蔵庫や調理器が使用できず、サービスが提供できない事業者があった。電気が復旧した事業所では、携帯充電など利用者に電気を提供した事業所もあった。

2 断水

備え 最低限の水の確保や水を入れるためのパケツ等の備え、給水所の情報入手などが課題として挙げられ、対応として、給水所や公園、貯水タンクからの確保、お風呂などへの貯水などが挙げられた。入所の事業所では、震災後に2ℓ→10ℓ/人と備蓄量を増やした事業所もあった。一方で、予算やスペースの確保など、事業所としての備蓄の難しさも課題として挙げられた。

その他 断水が解消した事業所では、張り紙の掲示などにより、近隣住民へ水やトイレを提供した事業所もあった。

3 食料

備え 備蓄品として下記の備えの必要性が挙げられた。

米（アルファ米含む）、乾麺、カップめん、缶詰、冷凍ストック

一方で、予算やスペースの確保など、事業所としての備蓄の難しさも課題として挙げられた。

サービス提供 非常食や冷蔵庫に保管されていた食料を利用者に提供した事業者があったが、質・量の面において、十分な提供ができなかったという課題が挙げられた。

その他 IH機器ではなくガス調理器具の有効性が確認されたほか、食材の確保面において、販売再開が早いコンビニの活用や卸売業者の活用なども挙げられた。

4 移動手段

建物・交通・サービス提供 停電によるオートロック、エレベーターの停止などにより、建物から出られない、入れないといった問題があったほか、公共交通機関や信号の停止により、徒歩、自転車、タクシーによる出退勤を余儀なくされた。自動車による出退勤の場合も、立体駐車場が使えない、ガソリンの確保などが課題として挙げられた。また、公共交通機関や信号の停止により、事業所の閉所やサービスの提供の中止を判断した事業者があった。

【中央区地域部会】

その他 就業時間内や冬期間の災害だった場合に、どのような移動手段や避難方法を取るかが検討事項として挙げられた。

5 安否確認

手段 利用者・職員の安否確認を行った手段として、下記の方法が挙げられた。

携帯電話（私用・職場）、メール、直接訪問、SNS（Facebook、LINE）

利用者・職員の連絡先の保管方法としては、紙ベースの連絡網や社用携帯へ連絡先登録が有効であり、PCでのデータ保管は停電時に使用ができず課題として挙げられた。一方、紙ベースでの保管の場合においても、定期的な更新を行うことが必要であり、また、停電により事業所へ入ることができないなど、連絡網はあっても安否確認そのものができなくなる事態なども想定されることから、連絡網の保管方法や社用携帯の当番制による持ち帰り、事業所閉鎖の貼り紙対応など、保管・運用・周知上の課題も挙げられた。

行動 安否確認や開所の結果、利用者の安心につながった。また、民生委員による安否確認や利用者からの連絡、利用者同士による安否確認などの動きも見られた。

順番 利用者の安否確認の優先順位に係るマニュアルの整備が課題として挙げられた（障がい特性、世帯、年齢、体調など）

役割 区役所、事業所、町内会など、安否確認における役割分担についての課題が挙げられた。

6 事業所の体制・備え

備え 事業所に必要な備えとして下記が挙げられたほか、定期的なチェック・補充や冬を想定した備えが課題として挙げられた。

懐中電灯、ヘルメット、事業所用携帯電話、モバイルバッテリー、ガスボンベ、ローソク
防災リュック、災害セット、フェイスシートの紙保管、計画的なガソリン補給

体制 日々作成していた災害対策マニュアルや避難訓練通りに対応できた事業所があった一方、災害対策マニュアルの周知・見直しが必要になった事業所や、事業所外・時間外におけるマニュアル・避難訓練の作成、実施の必要性を検討した事業所があった。

災害時の職員の行動にかかる組織的な指示系統や判断上の課題（自宅待機か出勤か、どのように連絡を取り、誰がどのように動くかなど）や、給与等の規定・就業規則の整備などが課題として挙げられた。また、利用者の居場所として事業所を提供できた事業所があった一方、交通状況や職員の出勤状況、職員・利用者の安全確保、食事提供の可否など、どこまで復旧すれば開所すべきか、その判断を誰がするかなど、事業所としての意思決定・受け入れ体制上の課題が挙げられた。

7 事後対応

利用者対応 利用者に対する事後対応として、下記の対応を行った（行っている）。

- ・メンタルケアが必要な利用者への面談や自宅訪問、居場所づくり。
- ・避難所での声掛け、名刺配り
- ・休みを減らすため、開所日数を増やした
- ・防災アプリ「そなえ」のDL勧奨
- ・グループホームから施設入所に変更した
- ・防災訓練（シェイクアウト）の実施

体制 震災対応についての振り返りの実施や、避難セットの確認を行った事業所があった。

8 その他

別紙「グループワーク意見集計」参照

【別紙】グループワーク意見集計

項目	課題・あったらよかったもの	できたこと		
停電	建物	電動シャッターで事業所に入れなかった		
		エレベーターが使えなかった		
		自宅ビル内のエレベーターが止まって困った利用者がいた		
	物品	懐中電灯、電池の備え	電池のストックがあった	
		携帯への充電器の備え（購入に何時間もかかった）	予備電源があった	
		LEDランタンの備え	約3日分の非常電源があった	
		ラジオの大切さ（情報源になる）	発電機があり、灯りの確保ができた	
		自家発電機の設置		
		予備電源だけでは不足		
		IHが使用できなかった		
	情報	備えてある防災用品の把握		
		携帯が使えないときの情報収集の方法	担当の利用者さんを決めて名簿を持っていた	
		公衆電話は通じたがどこにあるか不明だった	連絡先が会社の書庫にあった	
		電話が繋がらない→顔を見るのに時間がかかる	ノートPC、車で携帯を充電し、職員間で連絡を取り合った	
利用者へ連絡ができず、歩いて事業所に来る人がいた		携帯電話での連絡（個人・社用）		
サービス	節電のためLINEで情報共有			
	冷蔵庫に入れていたものがダメになった 米が炊けず食事提供ができなかった	備蓄している食材があった（GH・カフェ） 利用者さんに電気を供給した（携帯充電等） 集会室を借りて使った		
断水	備え	最低限の水の備え		
		水を入れるためのバケツの備え		
		長期保存の10ℓ/1人の確保（入所）	2ℓ/1人の備蓄があった（入所）	
	体制	事業所としての備蓄の難しさ（予算、スペース）		
		置く場所の確保が難しい		
	行動	給水所が分からなかった（支援者も）	近くの水道局（給水所）で水を確保 公園に行って水を確保 貯水タンクから確保した 溜められるものに溜めた（お風呂など）	
		その他	水が使えず食事提供ができなかった	地域住民（マンション住まいの方）などに水を無料提供
			トイレが流せなかった	張り紙を掲示し、水やトイレを提供した（周辺高層MSの人が多かった）
	買出しに行っても買えなかった			
	食料	え 備 備蓄品がなかった	缶詰などの備蓄があった	

【中央区地域部会】

項目	課題・あったらよかったもの	できたこと		
	GHで食料の備蓄がなかった 米、乾麺のストックが必要 カップめんなどの保存食の用意 3食×5日分の確保（入所） 置く場所の確保が難しい	アルファ米があった 冷凍のストックがあった 食材の確保、ストック状況→病院内で配膳 乾麺等で対応 米80kgの備蓄があった。		
食料	備え	事業所としての備蓄の難しさ（予算、スペース） 緊急時のアルファ米とガスコンロを共同部屋に置いておく		
	サービス	食糧不足で利用者に十分提供できなかった IHが使用できなかった 喫茶店だが、肉等提供できる状態ではなかった GHでの食事提供の可否について地域によってバラつきがあった GHで朝食が提供できなかった 質の低下の問題から食事提供ができなかった	食材があり、利用者に食べてもらえた（飲食系） 冷蔵庫に入っている食料、米を炊いて配給（GH） 食材があったので、食事を作り利用者に提供 非常食を利用者に提供	
		その他	スーパー等で確保するのが難しかった 調理のためにはガスが良い	卸業者を活用した→配送はストップしたが卸業者には商品がある状態だった。 セイコーマートからカップめんが購入できた。 市からおにぎりの提供があった（入所）
		建物	オートロックの建物は停電で出られなかった 自宅のエレベーター、自動ドア、オートロックが止まった 電動シャッターのため事業所に入れなかった 立体駐車場が使えなかった	
	交通	公共交通機関が止まったため出勤できなかった 自転車の所有 自動車用燃料の確保	徒歩、自転車、車で移動 法人負担でタクシーを利用した ガソリンスタンドの情報をツイッターで情報収集	
	サービス	公共交通機関が止まったら事業所はストップ 信号機がないため、送迎などのサービスは控えた		
その他	日中に起きた場合の避難方法の確認 就業時間内の発生だった場合、自宅への帰宅手段 冬期間の場合の移動手段			
安否確認	手段	固定電話が全滅状態 電話したがつながらず、携帯の充電も不安だった 連絡が取れなかったため安否確認ができなかった 1人で住んでいる人と連絡が取れない場合 連絡網を一覧にしておく・紙で用意しておく 社用携帯を当番制で持ち帰るなどの検討 利用者の家族の連絡先の確認 利用者の情報がデータで保管されており紙	Facebookの活用 当日の利用者については、全件訪問 メール、電話で確認。朝、前日に会えなかった人は訪問して確認。 社用携帯から利用者に連絡ができた 携帯電話を利用して行った（職員、利用者） 電話、訪問で安否確認した GHでは直接顔を見て確認 LINEを活用して情報共有	

【中央区地域部会】

項目	課題・あったらよかったもの	できたこと
	<p>ベースでの保管が必要</p> <p>利用者の電話番号や緊急連絡先が変わった場合の報告方法</p> <p>事業所自体が電動シャッターで入れず安否確認できなかった</p> <p>情報保管→データではなく紙ベースでの保管が必要</p> <p>安否確認の名簿がパソコンに保管されていた</p>	<p>職場の携帯電話だったので、一斉に職員に連絡</p> <p>事業所に入れず、連絡網もなかったため、事業所閉所の張り紙を行った</p> <p>紙ベースの連絡網があり、利用者と連絡がとれた</p> <p>職員の連絡網を作っていた</p> <p>緊急時の名簿を準備していた</p>
安否確認	<p>周辺の状況確認まではしていなかった</p> <p>手順、順番、程度（時間帯、各障害）が分からなかった</p> <p>安否確認のマニュアル→優先順位など（区分、世帯、年齢…）</p> <p>体調等を考慮し、優先順位を決めておく</p> <p>会社の役割として安否確認を行うべきかどうか</p> <p>近所の人に確認してもらえるような関係づくり</p> <p>区と事業所との安否確認の手段、役割分担（どこが連絡を取るのか）</p> <p>人工呼吸器を使用している方への対応</p> <p>職員も被災者</p>	<p>周辺の情報を確認、周知した</p> <p>連絡したことで利用者さんが安心した</p> <p>翌日に開所して利用者が集まり「皆に会えてよかった」との声があった。</p> <p>夜勤者が安否確認をした</p> <p>利用者さんから電話が来ることもあった</p> <p>民生委員に依頼しての安否確認</p> <p>利用者同士で連絡を取り合ってくれた</p> <p>道外に住む親族から安否の連絡があった</p>
事業所の体制・備え	<p>懐中電灯など日ごろの備え</p> <p>ヘルメットなどの備え</p> <p>事業所用携帯電話、ガスボンベの備え</p> <p>ローソクは火災の恐れがある</p> <p>備蓄品の整備、補充、確認</p> <p>冬の備え</p> <p>防災マニュアルの見直し</p> <p>事業所のマニュアル、避難訓練はあるが、事業所外、時間外のものも必要</p> <p>災害時マニュアルはあったが良く知られて</p>	<p>防災リュックを支給していた（GH）</p> <p>災害セットが置いてあった（GH）</p> <p>缶詰などの備蓄があった（B型）</p> <p>共同部屋に水、モバイルバッテリーなどの備え</p> <p>公用車のガソリンが半分になった時点で給油</p> <p>住宅にガスボンベ振り分け、ガソリン供給</p> <p>フェイスシートなど紙での管理を行っていた</p> <p>災害対策マニュアルを日々作成していた（薬の情報も）</p> <p>マニュアルにそって業務を遂行できた</p> <p>利用者がマニュアルどおり動けた（事前に事</p>

【中央区地域部会】

項目	課題・あったらよかったもの	できたこと
	なく不備が多かった	業所で話し合う場を設けていた)
	避難訓練の必要性。避難訓練の範囲を広げる	避難訓練を行っていた(火災、地震などいくつかを想定)
	待機か避難かの判断の難しさ	職員は自宅待機
	指示系統が不明瞭で判断に迷った	ラインワークス(法人内)で登録者(グループ分け)に連絡した→既読で確認
	指示出しの流れ(誰が、何時間おきに)	連絡網を作っており、各担当スタッフが安否確認を行った
	職員の動きについての明確な規定の整備、就業規則の見直し	車の給油を早くするようにした
	自宅待機時の給与について規則に定める	出勤・欠勤の判断をはっきり示す
	車で安否確認できる人の把握	電気が通ってすぐに開所し、水や食料を供給した
事業所の体制・備え	災害発生時の対応(移動手段がないときなど)について契約書に盛り込む	自分達で緊急時に準備する物のリストを作成していた
体制	開所状況の伝達→事業所閉所の張り紙を貼るなど	連絡を取れる状況での自宅待機(職員)
	交通状況、職員の出勤状況や安全確保、食事提供の可否など、どこまで復旧すれば開所の判断ができ、誰ができるかの道しるべ	情報開示の窓口を統一(デマ対策)
	自宅にいられなくなった利用者の避難場所としての会社の受け入れ体制	交通機関停止の情報提供
	交通機関が使えないときの職員の出勤について	給水所、充電等情報提供の促しを行った
	居宅介護の利用者の対応→自宅にヘルパーが月曜まで来なかった。	利用者の居場所として解放した
その他	計画相談が入っていることが少ない。関係機関での役割分担を決めておくのが良いのでは	
事後対応	利用者の心のケアが必要	メンタルケアが必要な利用者への面接、面談の実施
利用者	環境が変わり、不穏になった方への対応	メンタル面低下で通所できなくなってしまいうり者が多く、フォロー支援を行った
	不安で夜眠れない利用者が、その後の通所に影響した→その後まめにやりとりしてフォロー	利用者の居場所作り、家庭訪問。不安を抱えた人へのこころのケア
	事業所が休みになり、利用者から「自分たちの生活は？」と問い合わせがあった。	避難所を回って困っている人に声かけ、名刺配り(相談室)
	メンバーさんの意識付けをどのようにしていくか	札幌市防災アプリ「そなえ」を利用者さんにDLしてもらった
	セルフプランで生活している方への対応	20歳~80歳の交流でGHの結束が高まった
	ヘルプカードの作成(入所)	「意外と自力で何とかだった」(利用者)との声
	グループホーム利用者が避難所で過ごした(停電、水)	防災訓練(シェイクアウトの実施)(児童デイ)
		「ドロップ・カバー・ホールドオン」の実施、

【中央区地域部会】

項目	課題・あったらよかったもの	できたこと
		<p>練習（児童デイ）</p> <p>休みを減らすために開所日数を増やした</p> <p>グループホームから施設入所に変更した（相談支援事業所）。市外の方。GHが地震の影響で運営困難になり、施設入所支援を利用する事になった。入所調整とサービス等利用計画の計画変更を行った。</p>
体制	<p>地震発生時間によって対応が異なるためマニュアルに盛り込む</p> <p>30人分の備蓄は厳しい（飲料、断水の項目同様）</p>	<p>職員が社用携帯を持ち回りで営業時間外に持ち帰った</p> <p>対応についての振り返りを行った</p> <p>避難セットを改めて確認した</p>
その他	<p>患者さんのたらいまわしや医療的ケア（病院）</p> <p>怪我をした人どこに連れて行けばよいのか分からなかった</p> <p>職員自身も被災しており、事業所は避難場所にはならない</p>	
その他	<p>職員の身の安全の確保ができていない状況での対応（公平性）</p> <p>スタッフも被災者→基本は自分達で物資を確保してもらう</p> <p>避難所へ利用者と避難した場合の対応検討</p> <p>利用者さんが来た場合の対応</p> <p>日中、冬の災害だった場合の対応</p> <p>利用者に対する避難所への促し。避難所に行ってから対応</p> <p>長期間災害が続いたときの対応</p> <p>通所しない人もいた（地震の後）</p>	
体制	<p>こうした経験を忘れないように定期的な訓練</p> <p>利用者のサポート⇔会社としてのスタッフの安全確保の葛藤</p> <p>自宅待機時の現場の把握（分からない事態が増えることが不安）</p> <p>事業収入がなくなった→救済措置があれば</p> <p>事業所閉所に伴う利用者の工賃減</p> <p>リスクマネジメント（事故時の責任）</p>	<p>灯油、電気を使わないストーブの備えが必要であることを検討</p>
連携	<p>復旧が早い事業所の開放など</p>	<p>横のつながりで助けてくれるところがあった。地域部会のつながりは大事</p> <p>町内会の方と相談し、炊き出しを行った</p> <p>児童クラブを運営していたが、親たちが手伝</p>

【中央区地域部会】

項目	課題・あったらよかったもの	できたこと
		ってくれたので開所できた
その他	ヘルプマークの活用 計画相談に避難所の記載等があればよい	

札幌市自立支援協議会 北区地域部会

防災に関するまとめ

○ 防災に関する意見集約

11月及び3月に開催した全体会において、防災に関する学習会を実施。平成30年9月6日に発生した北海道胆振東部地震をテーマに、11月は支援者（事業所等）の立場として、3月は障がい当事者の立場にたった支援の在り方についてグループワークを行い、出た意見等を集約しました。

○ グループワークの概要・まとめ

第1回全体会	第2回全体会
<p>【日時】平成30年11月20日</p> <p>【場所】北区民センター 3階区民ホール</p> <p>【参加人数】34名</p>	<p>【日時】平成31年3月7日</p> <p>【場所】北区民センター 3階区民ホール</p> <p>【参加人数】48名</p>
<p>【テーマ】</p> <p>障がい福祉サービス事業所における災害対策について</p> <p>(テーマとした趣旨)</p> <p>各事業所における災害対策の現状と課題、今後の対策について意見交換を行う。</p>	<p>【テーマ】</p> <p>障がい当事者が語る9.6</p> <p>(テーマとした趣旨)</p> <p>胆振東部地震時に障がい者当事者が実際に直面した困難事を事例とし、当事者の立場に立って解決策等を検討する。</p>
<p>【グループワークで検討した事項】</p> <p>震災を通して得た教訓や課題、支援者に求められる役割等を検討</p>	<p>【グループワークで検討した事項】</p> <p>身体障がい者1名及び発達障がいピアサポーター3名が直面した困り事について対応策を検討</p>
<p>【グループワークで出た主な意見】</p> <p>電気</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発電機情報の共有ができるとよい。障がいによっては電気は生命線。 ・紙削減及び個人情報漏洩の防止のために利用者情報を電子情報で一括管理していたが、停電で使用できなくなった。紙での利用者情報も必要と感じた。 ・電気錠で事務室内に入れなかった。 <p>連絡・通信手段の確保</p>	<p>【グループワークで出た主な意見】</p> <p>事例1 身体障がい者Kさん(電動車いす使用)</p> <p>≪困り事≫ 停電によりマンションのエレベーターが停止したため避難できない。</p> <p>(自助の観点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急時必要な物品は、個人単位でできる限り準備する。 ・備蓄品の見直し。 ・緊急時用に電動ではない車いすも準備する。

第1回全体会	第2回全体会
<ul style="list-style-type: none"> ・LINEが役に立った。 ・職員間の連絡手段の確保が重要。 ・子どもたちや視覚・聴覚の障がいを持つ方々に正確な情報をどのように伝えていけばいいか。 ・連絡網の作成が必要。 ・ラジオが活躍した。 ・ノートPCの用意が必要（デスクトップが使用できなかった）。 <p>備蓄</p> <ul style="list-style-type: none"> ・震災後、飲料水を大量に（2ℓ×500本）ストックした。 ・クーラーボックスがあって良かった。 ・インスタント食品、アルファ化米の備蓄 ・携帯電話用充電器、ランタンを購入した。 ・発電機、電池の購入。 ・防災リュックの購入 <p>暖房</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガス用暖房機器を購入（カセットボンベで使用できるもの）。 ・湯たんぽ、ホッカイロの備蓄。 <p>障がい者等へのケア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震からしばらく経っても不安定な子どもがおり、心のケアが必要。 ・児童デイに通所している子の中には、震災以降、不登校になってしまった等、今でも不安や恐怖を感じている子もおり、終わったことではなく、現在も進行中で、影響は長期にわたるものだと実感している。 ・避難所に配慮が必要な人用のエリアが必要。 ・利用者へのケアも大事だが、スタッフへのケアも大事。 ・独居障がい者が災害時に相談できる支援担 	<p>（共助の観点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の協力、特に民生委員の活用。 ・緊急時の事業者間の連携が必要。 ・地域とのつながりが必要。町内会とのつながりや近所の住人同士で助け合える環境作り。一方で個人情報の問題を解決する手立ても必要。 <p>（公助の観点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所の中で専門的に対応できる人がいるとよい。 ・福祉支援マップの作成。やはり福祉避難場所はマップにするなどしてオープンにしておくべきではないか。 ・事業所の発電機購入に補助があると良い。 <p>事例2 発達障がいさん(反復性うつ病)</p> <p>《困り事》避難所でうるさくて休めない、落ち着けない。</p> <p>（自助の観点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・停電時でも有効な情報発信手段が必要。 <p>（共助の観点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練に発達障がいの人むけにSST（ソーシャルスキルトレーニング）を取り入れる。 ・障がいに関する専門知識を持っている人が避難所にいるとは限らない。その点で、専門の職員がいる障がい福祉サービス事業所が果たせる役割は大きいと思う。 ・事業所単体にはできることは限られており、近隣の事業所同士が横のつながりを常日頃から深めておくことが必要。つながっていることで、災害時に連携し、それぞれの事業所で使用できる場所や設備等を困っている障がい者の方々に提供できたりもするのではないか。 <p>（公助の観点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サンプラザのような臨時の避難所だとし

第1回全体会	第2回全体会
<p>当者がいるとよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 障がい者にとって支援者からの連絡でとても安心する。声掛けは非常に効果的だ。 地震発生時、グループホームの入居者同士は互いに助け合う意識が働いたものの、落ち着いたら、気が抜けたのか不調になってしまいケアが必要になった。 <p>マニュアル等の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害種別ごとのマニュアル作成が必要。 冬期間を想定したマニュアル・訓練が必要。 日中の活動時間帯に発生した場合の事も考えておく必要がある。 福祉的トリアージの方法を考えておく必要がある。優先順位をつけて対応することが大事。 災害時に支援者が利用者に対してできることの線引きを事前に決めておく必要がある。 自力で移動できない障がい者などはどこに避難すればいいのか。避難所に関する情報が少なすぎる。自分達も勉強しなければならない。 <p>事業所間の連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 近隣事業所や地域との連携の必要性。 今日のグループワークのように立場の違う人たちが災害体験を分かち合う機会に参加できてよかった。 	<p>ても指揮できるリーダーがいるとよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難所に話を聞いてくれる人がいると良い。 <p>事例3 発達障がいKさん(広汎性発達障害)</p> <p>《困り事》 どうしてよいかわからず、とりあえず通所事業所に行く。交通機関が使えないため、2時間歩いていた。</p> <p>(自助の観点)</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要な情報を得るためにどこに向うべきかを考えておく。 公の防災マニュアルとは別に自分専用の防災マニュアルを用意しておく。 避難所や区役所などの公の施設の位置関係を確認しておく。また、病院などの医療機関や福祉施設等の位置も確認しておく。 <p>(共助の観点)</p> <ul style="list-style-type: none"> 横のつながりを深め、各事業所がそれぞれもつ資源を連携して活用・助け合うことでより多くの障がい者の方を助けることができると思う。 情報を得た時にそれを一人で判断することが難しい場合に一緒に考えてくれる身近な人がいることが重要。 <p>(公助の観点)</p> <ul style="list-style-type: none"> 公と民の連携、民と民の連携 <p>事例4 発達障がいHさん</p> <p>(広汎性発達障害、躁鬱)</p> <p>《困り事》 震災後の精神的不調(暗所、余震への不安。午前3時が怖い。)</p> <p>(自助の観点)</p> <ul style="list-style-type: none"> 震災時、あの時どうしたら良かったのだろうといった、振り返りを行うことが大切。 日頃から地域とのコミュニケーションを

第 1 回全体会	第 2 回全体会
	<p>しっかり図っていく。</p> <p>(共助の観点)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 信頼できる施設（事業所）間の連絡を行う。 • 事前にシュミレーションを行っておくことが大切。具体的にはハザードマップや避難経路の再確認、事業所での被災時のマニュアル検討、モバイルバッテリーの確保など。 • 福祉に関わるものとして今後できることとして、各利用者のコミュニティを把握し、他事業所との連携をしながら、孤立が無いように声かけしていく。今何かできなくても安否の確認を行うことで不安に対するケアを行う。日々信頼関係を築いていき、困った時にこそコミュニケーションを大切にする。 • 情報に弱い人の特性(例えば①そもそも情報収集を自分でできない人②「気を付けて」の一言に対し必要以上に不安を感じてしまう等情報や言葉の捉え方に困難さがある人など)の把握

○ 2019 年度の活動に向けて

上記2回のどちらのグループワークにおいても、「支援者（事業所）間の連携・横のつながりの大切さ」が共通して多く出された意見であり、「防災」というテーマをとおして、地域自立支援協議会の役割である「支援者間のネットワークづくり」の重要性を改めて認識したところです。

そのため、北区地域部会としては、2019 年度は、支援者間交流会の実施など、区内の支援者同士が「顔の見えるつながり」を深められるような取組に力を入れて活動していきたいと考えています。

【東区地域部会】
東区地域課題整理表（防災の課題）

東区部会に寄せられた相談、声		課題の抽出			⑥優先度			⑦実施主体		課題の進捗状況	
①事例、問題提起、困りごと…	②相談者	③個別ニーズ・部会の意見等	④課題の設定	⑤類型	重要度	緊急度	取組効果	協議会	部会	⑧取組提案	⑨経過・結果
在宅で、24時間酸素療法を行っている障がい児が、震災に伴う停電で電源が確保できず、かかりつけのクリニックに相談したが、大きな病院への入院手配や紹介はしてもらえず、家族が直接電話するよう言われ困った。	障がい事業所 (2018.10.5ネットワーク部会運営会議)	24時間電源が必要な医ケアを在宅で行っている障がい児者が、災害による停電時に、電源確保などの入院が必要になった場合のしきみのあり方を検討する必要がある。	災害時の入院受け入れのしくみづくり		★★★	★★	★★	○	○	退院前に、災害緊急時の入院受け入れについて、あらかじめ定めておくしくみを検討する。	
自閉症の子供の親が、多動などの障がい特性から避難所に避難できなくて在宅で過ごすしかなく、パニックなどの対応や食糧・水の確保が困った。	障がい事業所 (2018.10.5ネットワーク部会運営会議)	多動など障がい特性のため、一般避難所に避難できない障がい児者の避難所の指定について検討する必要がある。	避難所指定の整備		★★	★★	★★	○	○	通所先や養護学校などを避難所指定先として検討。 福祉避難スペースの開設の徹底。	
精神や知的の障害児者は、災害発生後数日から数週間後に心身に変調が現れたが、災害時の心のケア専門の相談窓口がある事を知らなかった。	障がい事業所 (2018.10.5ネットワーク部会運営会議)	災害時に心のケア専門の相談を受ける窓口の周知を徹底する必要がある。 *生活支援ガイド 1.よくある質問(Q&A) http://www.city.sapporo.jp/kinkyu/seikatsushien/201809/index.html#QA	相談窓口の周知		★	★	★	○	○	札幌こころのセンター相談窓口の周知。	
児童デイを利用する親が、事業所からの安否確認で訪問を受け、親子ともに安心できたという事例。 精神や知的の障がい児者は、震災発生直後の訪問等の対応で、ショックがかなり抑えられたという事例。	障がい事業所 (2018.10.5ネットワーク部会運営会議)	福祉サービス提供事業者が軸になった災害発生時安否確認のしくみを検討する必要がある。 例) 事業所連合チームが地区割りで安否確認する。 例) 障害者手帳・受給者証更新時に、近所の事業所の場所・連絡先をお知らせし、何かあれば頼るよう案内する。	安否確認のしくみの検討		★★	★★	★★	○	○		
本人や子供の障がいにより、避難所に避難できず在宅で過ごし、水汲みや食糧・ガソリン確保に出かけても長時間並ぶことができず、入手できなくて困った。	障がい事業所 (2018.10.5ネットワーク部会運営会議)	障がい児者本人や家族が、優先的に水や食糧・ガソリンを確保できるような仕組みを検討する必要がある。	災害時物資確保のしくみづくり		★★★★	★★★★	★★★★	○	○	ディズニースーツのゲストアシスタンスカード方式のように、手帳所持者等要配慮者の予約時間制導入。 手帳所持者等要配慮者について、専用販売時間帯（開店後1時間、閉店前1時間）を設ける。	

白石区地域部会『防災のまとめ』

○議論の流れ

- ・月1回の運営部会で、9月6日の地震発生後の各事業所の状況を報告し合った。
- ・12月17日、全事業所交流会を開催し、就労系・施設(住宅)系・訪問系の各事業所より、地震発生後の取り組みについて発表してもらい、その後のグループワークで議論を深めた。

○課題整理

- 1 事業所でできること・・・BCPの策定と想定訓練。
近所の小規模事業所の助け合いが必要。
- 2 地域でできること・・・福祉サービスを受けていない障がい者とのつながり。
更に「個別支援計画」の作成。
- 3 行政でできること・・・「避難行動要支援者名簿」の作成と有効活用。
避難所における合理的配慮。

○上記に2について「誰が」担うのか？の結論は、まだ出ていない。

【厚別区地域部会】

平成 30 年度 厚別区地域部会 第 8 回事業所交流会 日時：平成 30 年 12 月 5 日（水）

話題提供①「障がい者事業所の災害対応プランづくり」 古山 周太郎氏（東北工業大学ライフデザイン学部 准教授）

話題提供②「災害発生から、サービス復帰まで」

グループワーク①9月の震災発生後どのように動いたか ②もし震災がこんな時に起きたら、どんなことに困るだろうか（昼間に起きていたら、冬に起きていたら、電話やメールなどで連絡ができない時）③実際に災害を経験し、今後どのような備えをしたらいいだろうか？

以下各グループからのまとめ

	①震災発生後どのように動いたか	②もし震災がどんな時に起きたら、どんなことに困るだろうか	③実際に震災を経験し、今度どのような備えをしたらよいだろうか？
A	<p>◎被害状況は？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建物に被害はなかった。短期入所は朝送迎を行なった。 ・水が出る事業所で水を提供していた。 <p>◎連絡はどのように取り合ったか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNS で職員、利用者がつながっていたので利用した。 ・携帯電話で利用者の安否確認を行なった。 ・電波がなく、安否確認ができなかった。 <p>◎地域との関りはあったかなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人もきてくれない。自分でいっぱい。 <p>◎その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熊本地震の時の本を利用した。 ・火災ばかりのマニュアルだった。マニュアルが必要 	<p>◎昼間に起きていたら</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族などと話し合う。 <p>◎冬に起きていたら</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストーブ ・毛布 <p>◎電話やメールで連絡ができないとき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害伝言板 ・アナログ電話 <p>◎その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・炊き出しをすればよかった。 ・冷凍庫が大きいのがあると。 ・自動車のリーフ（車の電気を使う） ・マニュアルを作成。

【厚別区地域部会】

	と感じた		
B	<p>◎被害状況は？</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活介護事業～大きな被害はなかった。利用者の方がマンションのエレベーターが動かず困っていた。タンクで水をくみ上げることができず、断水になった。 医ケアが出来ず、入院になったケースがあった。どこに連絡してよいか、利用者がわからなかった。 SS～定員4名だった。電気、水道が止まった。朝ご飯は職員の差し入れで作った。 通所（就労継続）～大きなことなく、利用者も落ち着いていた。 <p>◎連絡はどのように取り合ったか？</p> <ul style="list-style-type: none"> 来れる人のみ集まった。電話にて利用者に連絡。 PCが立ち上がりず、自分の仕事専用の携帯番号で対応できた。 利用者の固定電話が繋がらなかった。携帯も電波がなくつながりづらかった。 <p>◎その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 連絡がつかないと苦情が多くあった。考えが甘かったこと後悔した。 社員に信号機がついていない状態で運転はさせられないと思った。左折中心に運転していた。 	<p>◎昼間に起きていたら</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者の送迎ができたか心配。 医ケアできるか心配。 訪問先であったら帰ることができたか。 利用者がパニックを起こしたかもしれない。対応に追われるかも。 <p>◎冬に起きていたら</p> <ul style="list-style-type: none"> ポータブルストーブを購入した。（ガス） 	<ul style="list-style-type: none"> 電気（電池、バッテリーなど）の用意 医療機関との連携 連絡網の作り直し⇒災害伝言ダイヤルと併せたほうが良いのか？ 物よりも情報を集めができるアイテムがあれば…。車のテレビ（ガソリン不足も心配）
C	<p>◎被害状況は？</p> <ul style="list-style-type: none"> 机や棚から物が落下。 	<p>◎昼間に起きていたら</p> <ul style="list-style-type: none"> 医療機器の使用 	<ul style="list-style-type: none"> 各事業所に3日分の食事備蓄を検討（本部だけに置いておいたら信号

【厚別区地域部会】

<ul style="list-style-type: none"> ・ 停電、断水。 ・ サービスの停止は、事業所ごと異なるが、6、7日サービス停止。月曜から再開したところや7日から再開など。 ・ 信号が止まっている間は、営業停止と決めた。 <p>◎連絡はどのように取り合ったか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 携帯メール ・ 連絡網で連絡した。 ・ 携帯に利用者に連絡先を入れていた。 ・ 管理者ライングループ。 ・ 管理者が保護者に連絡をして安否確認。 <p>◎地域との関りはあったかなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 民生委員に連絡。 ・ 関りを持ったことがない。 <p>◎その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 作業面では、納期がある作業について納期を確認。作業に来たいという方がいた。通勤経路が心配だったので、家族と確認し、納得してもらった。 ・ 6日は休んだが、7日再開の判断が、7日にしかできなかった。 ・ 預けたがる人はいなかったか？心配の方が大きく、休ませる保護者が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ パニック対応 ・ 状況理解をどうすすめていくか（認知症の方、知的の方） ・ 訪問先で1対1対応の場合に一緒に避難？事務所に戻るべき？ ・ 送迎中だったら、自己の心配、戻るべきか、自宅に送るべきか。 ・ 停電によって防災機器、火災報知器も作動しなくなる。安全の確保が出来なくなる。 <p>◎冬に起きていたら</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 暖を取る方法（布団、車内） ・ 全員を安全に見ることが出来なければ、帰宅させることも必要では。優先順位が必要。 <p>◎電話やメールで連絡できないとき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 明確なマニュアル（～の場合は集合する） ・ 最終判断が確認できない（管理者の） <p>◎その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3日分の食事の備蓄 	<p>機が止まったら取りにいけない)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 暖を取れるもの、ポータブルストーブ ・ 訓練計画・実施の継続（実際に起こった場合を想定した訓練の継続） ・ マニュアル作成 ・ ガソリンを入れておく（意識が高まった） ・ 移動手段の確保（自転車・ガソリン補充） ・ 情報入手手段（ラジオ） ・ 利用者データの更新（最新にしておく） ・ データだけではなく、紙面で管理することも必要。（改めて購入したもの） ・ 電池 ・ ランタン ・ 懐中電灯 ・ ガスコンロ
--	--	--

【厚別区地域部会】

	<p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者本人に連絡が付きにくかった。言ってもいない方への対応が困った。 ・入浴希望に応じきれなかった。 ・食事内容を詳しく知りたいと言われたが、対応できなかった。 ・避難場所にはいかない決めてい居た人がいた。 ・利用者の状況理解が難しかった。その後の不安をどう解消するか対応を考えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい情報をどう選択していくか ・ガソリンの確保 	
D	<p>◎被害状況は？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区役所に携帯の充電をしに来る人が多かった。 ・北区は被害が大きく、建物の中に入れなかった。 ・避難所は当日電気が使えず、電気で水をくみ上げているので、水が使えなかった。 ・事務所の食器が落ちて割れた。 ・水道、ガスが事務所で止まった <p>◎連絡はどのように取り合ったか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヘルパーにはメールで自宅待機の連絡をした。 ・安否確認の電話を利用者にした。 ・支援が必要な利用者さんには、車で行けるヘルパーに頼んだ。 ・連絡がつかない人は直接家に行ってキャンセルさせてもらった。 ・高齢の方で、携帯を持っている人が少なく連絡に困った。 	<p>◎冬に起きていたら</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所に電源がない。ストーブが1つしかない。電気がないとできる事が少ない。 ・水の確保（公園は使えない） ・車を活用する。 <p>◎電話やメールで連絡ができないとき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気を使わなくても使える電話があるとよい。 <p>◎その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者さんたちも自分で用意できる物はしてもらう（家族にも頼む） <p>◎冬に起きていたら</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自助で利用者さんにも備えをしてもらう。 ・福祉の支援を必要な人のスペースを作る。（地域の人の理解が必要）運営は役所だけでは難しいので協力が必要。

【厚別区地域部会】

	<ul style="list-style-type: none"> ・優先順位をつけて連絡をしたが、2、3日かかった。 ◎地域との関りはあったかなど ・避難所に2、30人来ていた。 ・まちづくりセンターからアルファ米があると事業所に連絡がきた。もらったお米を利用者に配った。 ・避難所に町内会の人も来てくれた。消防団の人がトイレを貸してくれた。 ◎その他 ・自転車で行けるヘルパーは自転車で行った。 ・動きを話し合って決めることが難しかった。 ・外出余暇はキャンセルしてもらった。 ・自宅からポリタンク、カセットコンロを持ってきてショートステイに使った。 ・水汲みに行った（もみじ台） 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所に電源がない。ストーブが1つしかない。電気がないとできる事が少ない。 ・水の確保（公園は使えない） ・車を活用する。 ◎電話やメールで連絡ができないとき ・電気を使わなくても使える電話があるとよい。 ◎その他 ・利用者さんたちも自分で用意できる物はしてもらう（家族にも頼む） 	
E	<ul style="list-style-type: none"> ◎被害状況は？ ・食器、書類が散らばる。 ・利用者さんの家の被害→無事、物が壊れていた。 ・電気通じない ・全職員に確認ができなかった。 ・利用者さんが不穏になっていた。 ◎連絡はどのように取り合ったか？ ・電話で確認。 ・訪問して確認。 ・職員のグループライン ・訪問しても、インターホンが使えなかったり、オー 	<ul style="list-style-type: none"> ◎昼間に起きていたら ・高層マンション ・地下鉄 ・火災 ◎冬に起きていたら ・車で暖をとる。 ・ガソリン満タン ・カイロ買いだめ ◎電話やメールで連絡ができないと 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図を作る ・備蓄（最低3日分） ・ガソリンは半分になったら入れる ・灯り（ロウソクは危ない） ・電池 ・マニュアル ・社用携帯 ・着替えをリュックに詰める ・スニーカー（けが防止）

【厚別区地域部会】

	<p>トロックで開かなかった。</p> <p>◎地域との関りはあったかなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人から声掛けがあった（あっちのほうの水汲み早いよ等） ・高齢者の住んでいる部屋を把握しているマンションがあった。 ・オムツがなくて分けて欲しい。 ・食料の情報提供。 <p>◎その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転車で行けるヘルパーは自転車で行った。 ・動きを話し合っで決めることが難しかった。 ・外出余暇はキャンセルしてもらった。 ・自宅からポリタンク、カセットコンロを持ってきてショートステイに使った。 ・水汲みに行った（もみじ台） 	<p>き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近くだと歩いてでも訪問 ・家族とはどこで待ち合わせるか確認しておく（避難所の確認） ・職員間でルールを作る ・地図を作って近くの利用者を知る。 	
F	<p>◎被害状況は？</p> <p>〈グループホーム〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の安否確認をした。 ・家族への報告に時間がかかった。 <p>〈小売店（福祉用具）〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガソリンがなく、物が入ってこなかった。 <p>◎地域との関りはあったかなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちのことで、一杯だった。 <p>◎その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オムツの足りない特養の依頼で、問屋に取り次ぐこ 	<p>◎昼間に起きていたら</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通所等なら自宅に戻ることが出来なくなる。 ・働きに出ている利用者の安否確認が難くなるのでは。 <p>◎冬に起きていたら</p> <ul style="list-style-type: none"> ・暖房の確保が大切。 ・火事の心配。 ・車が渋滞するのでは。 <p>◎電話やメールで連絡ができないと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・夏は脱水、冬は暖房に対するの対応。 ・防災備品のチェック→補充 ・車からとれる充電器があるとよい。 ・電気を使わなくても点く、ポータブルストーブの購入。

【厚別区地域部会】

	とができた。	<p>き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に行くしかないのでは？ ・災害マニュアル（BCP）の再確認が必要では？ <p>◎その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現金がないと困った（カードが使えない） 	
G	<p>◎被害状況は？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・壁にかけていた時計が落ちる（壊れる）程度。 ・断水 ・電気が使えない。 ・スプリンクラー、電話が使えない ・利用者さん宅で、電動ベッドが途中で止まって動かせない。 ・オムツが欲しいとの利用者の願いに対して、近くの事業所に連絡をし、近くの事業所から提供。 <p>◎連絡はどのように取り合ったか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電話連絡（管理者中心に動く） ・防災担当者から安否確認、支持の提示 <p>◎地域との関りはあったかなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近くの避難所へ確認に行く（青葉中学校） ・農家さんとの関わり（直接米を取りに行くなど） ・家族さんへの食事提供。 <p>◎その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電池等必要な物の確認、確保 	<p>◎昼間に起きていたら</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電気が使えなかった場合、暗くなった時に不安が募るのでは。 <p>◎冬に起きていたら</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重度の方はすぐに状況を確認して適切な対応（暖）を取ることが難しい。 ・暖を取るのにガスで使えるエアコンを用意しているが、地震（震災）の多さによっては使用が難しい。 <p>◎電話やメールで連絡ができないとき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームヘルプなどで外に出ていた時など、管理者等上司に連絡が仰げず、対応を一人で判断しなければならない為、断る。 <p>◎その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が被災していたら対応が難し 	<ul style="list-style-type: none"> ・防寒グッズの用意 ・災害マニュアルの確認 ・災害マニュアルを作っている、活用できなかった。ちゃんと意識して対応していくべき（作成、対応） ・対応しなければいけない緊急性の高い状況（ニーズ）を確認しておくことが大切（全体で） ・自動販売機、自然災害があって電気が使えない時に使える工夫。 ・情報の収集ができるラジオを準備する。 ・ガソリンは常日頃満タンの状態にしておく。 ・エレベーターに予備電源の用意（会談での移動が難しい方に向けて）

【厚別区地域部会】

	<ul style="list-style-type: none"> • 水を節約するために食器にラップを活用。 	<p>かったのでは。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 防寒対策が必要（今は購入者（物）が多く難しい） • 準備が周到にされていないければ、実際に起きた時にすぐ対応できない（形だけでは対応できない） 	
<p style="text-align: center;">H</p>	<p>◎被害状況は？</p> <ul style="list-style-type: none"> • 揺れるのが怖くて眠れない（子ども） • 「会社に連絡をしたが、連絡がつかない。どうしたら？」と相談があった。 • ガソリンを入れる目的が、携帯を充電する、テレビを見るためだった。 • 「これから断水します」というデマがまわった。 • 透析の人が困った。→病院へ • 信号が止まった。 • 救急の連絡をしても、1時間ほど来なかった。 <p>◎連絡はどのように取り合ったか？</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1人暮らしで家族が遠方の方を優先に安否確認。 • 携帯が繋がらず、充電もなく大変だった。 • 居宅のほうは、併設の施設の手伝いをしていたところも。 <p>◎その他</p> <ul style="list-style-type: none"> • 水を配ってくれたDSもあり（備蓄をしていたものがあつた） 	<p>◎昼間に起きていたら</p> <p>◎冬に起きていたら</p> <ul style="list-style-type: none"> • まず避難所に行く！呑気にしてられない。 <p>◎電話やメールで連絡ができないとき</p> <p>◎その他</p> <ul style="list-style-type: none"> • 利用者宅にいるとき（サービス提供中）に被災したらどうする？→マニュアルは特にない。 • 非常用電源は2時間ほどしかもたない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 場面を想定した訓練が必要。 • 発電機を導入した。 • 災害時訪問で収集した地域情報をデータにして保存。 • 手回しできるライトやラジオ→使えるかチェックを！ • 灯油ストーブ • カセットコンロ • 個別ファイルではなく、必要な情報（住所、電話番号、キーパーソン）の入った名簿の作成 →これない職員もいるかもしれないのでわかるようにしておく。シール等で独居、障がい等がわかるようにしておく。

【厚別区地域部会】

	<ul style="list-style-type: none"> ・安否確認のリストアップをしていなかった。 ・もみじ台のホクノーが早く復旧していた。地域密着型は強い！ 		
<p>1</p>	<p>◎被害状況は？</p> <p>〈病院〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・停電の影響で電子カルテが使用できず当日は休んでいる。 <p>〈包括〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレが使用できない。 ・食事提供できず、非常用の食材で対応していた。 ・500件の安否確認の必要があり、その方の状態に合わせて確認。 ・災害時マニュアルはなかった。 <p>〈ヘルパーセンター〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員には自宅待機の連絡をしていた。 ・問い合わせも多数あったが、より緊急性の高い利用者への対応をしていた。 ・ライフラインの復旧により電話が増え、「買い物をしてもらいたい」等が増える。 ・ガソリンの問題もあった。 <p>〈あおば〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の安否確認、利用者のリストがあり優先的な方（認知症）への対応をしている。 ・自治会の炊き出しが始まり、声掛けを行う。 <p>〈しんさっぽろ〉</p>	<p>◎昼間に起きていたら</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日中に災害が起きていった場合、より臨機応変な対応が求められていた。職員が出勤していない状態で良かったという意見も。 ・プライベートの事（家族の事）と仕事のバランスを考えるのが難しかったのでは。 <p>◎冬に起きていたら</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寒さの影響を考えると、夏で良かったという意見が。 ・自宅待機できる方が減り、行き場がなくなる人もより増えるのでは？ <p>◎電話やメールで連絡ができないとき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・固定電話のほとんどが使用できなかった。ガラケーやスマホを使用していたが、電波が悪くなる、充電ができないなどの問題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議を行い、非常訓練の実施が必要。決まりきった計画ではなく、ケースバイケースで対応できる計画が必要。 ・利用者様に対して、今後の備蓄についてのアドバイスをしていた。防災グッズや水の確保。 ・複数のサービスを使っている方で、訪問が重なる事があった。利用しているサービスを把握する事や、日ごろの連携が必要。

【厚別区地域部会】

<ul style="list-style-type: none"> ・職員の安否確認、各部署の確認、出勤できる人は出勤。 ・生活の不安のある方への対応。 ・相談予約の調整。 ・ライフライン復旧により、就労に関する相談が増える。「出勤した方がいいか？」 ・ケガ等はなかったが、今後は訪問も。 <p>◎連絡はどのように取り合ったか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヘルパー：昼間あれば困る。出勤前で良かった。 ・日中であれば仕事のバランスと自分のプライベート（家族の事など）心配が重なっていた。 ・冬であれば寒さの影響が考えられる。より生活に困る人が増えるのでは。夏で良かったという意見も多くあった。 ・連絡が取れない、固定電話が使用できず、携帯電話を使用していた。しかし充電ができない問題があった。（セイコーマートで充電をしていた） ・電波も悪い。 <p>◎地域との関りはあったかなど</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所に行ったが食料がなく退却することがあった。 ・町内会で障がいを持つ方の把握をしていた。（そういった動きはあったが、実際の災害時は機能していなかった） ・札幌市役所（区）で本人の同意があれば、当事者の 	<p>◎その他</p>	
---	-------------	--

【厚別区地域部会】

	<p>情報を町内会に開示することもできる(非常時の対応の為)</p>		
<p>J</p>	<p>◎被害状況は？ 〈社協〉 ・停電（2日間）直接的な被害はなし。（直接支援している人たちへのアプローチ、協力依頼）～まちセン（200食は備蓄されていた）あまり活用されなかった印象。 〈包括〉 ・400～600人全員の安否確認はできない～必要性の高い方への安否確認（二人一組） ・落ち着いている高齢者が多かった。 ・近所の人水が配るなど助け合っていた。 ・施設の電気と水は止まった。法人内の入所者への対応。 〈区役所〉 ・5:00～集合指示。各避難所に1人配置（1日2交代） ・女性朝5:00～17:00、男性17:00～夜中。 ・初めての経験だった。 〈サ高住、居宅〉 ・利用者の安否確認。電話ができず、自家用車もガソリンの問題があり。 ・住宅内のヘルプ（自動ドアの見張り） ・デイサービスの再開は月曜日から。</p>	<p>◎昼間に起きていたら ・火災が起きていたのではないか。 ・パニックになる人、交通事故。 ・通所で帰せる人、帰せない人の判断、対応。 ・自分たちの家族の事も心配。 ・地下鉄など、交通機関に閉じ込められる人もいたのでは。</p> <p>◎冬に起きていたら ・最悪だ！ブラックアウト＋ホワイトアウト。 ・寒い。暖をどうとるか→死者が出るのでは。 ・みんなでキャンプファイヤー：換気の問題。 ・高齢者、身体障がいがある人。</p> <p>◎電話やメールで連絡ができないとき ・行くしかない。</p> <p>◎その他</p>	<p>・優先順位をつけて安否確認をする。（精神障がい、医療ニーズの高い人、独居） ・マニュアルの準備。 ・電池、救急箱、備蓄品の準備、ストーブ、カセットコンロ →3日分 ・個人への働きかけ（備品準備の啓発） ・給水場所を把握しておく（ラジオの活用）、札幌市防災マップの活用。 ・障がいがある方用の避難所。 ・重なって安否確認しない為には。 ・民生委員で3:00から安否確認をしていた人も。ネットワークを付けていると、事業所が全部見なくてもいいかもしれない。 ・民生委員さんを知っておくことが大切。（高齢事業所は繋がっている人も多いが、障がいはまだまだ少ない）</p>

【厚別区地域部会】

<p>〈障がい相談〉</p> <ul style="list-style-type: none">・マニュアル用意していなかった。・duoの中に入れず、法人としては自宅待機。・自己判断で食糧配りなど。・精神疾患の方で不安が強く、電話が長い人もいた。・職員の判断と本人の思いが違い、優先順位の判断が難しかった→自分を優先してほしい。 <p>〈ますとびいー〉</p> <ul style="list-style-type: none">・家の電話番号しかおさえていない人もいた。・停電でATMが使えず、買い物に行けないという相談が来ていた。・「自分たちが困っているのにできないのかい」後々クレームへ。自分が一番困っているという思い。 <p>◎連絡はどのように取り合ったか？</p> <ul style="list-style-type: none">・ラインや連絡網。 <p>◎地域との関りはあったかなど</p> <ul style="list-style-type: none">・デイや包括、民生委員がすでに安否確認をしていた。・近所の人（普段関わりが無い人）が水を配って歩いていた。 <p>◎その他</p> <ul style="list-style-type: none">・家に入れず安否確認ができないケースがあり困った。・コンビニで水がないので、アルコールを飲んでいった。	<ul style="list-style-type: none">・病院が長い列（持病を持っている人）急な寒さで2次的被害が出ている。	
--	--	--

【厚別区地域部会】

	<ul style="list-style-type: none">・給水場所がわからず。・マニュアルを準備していなかった。・電池、窓ガラスが割れた時の対応、救急箱などの日頃の準備。・知的障がい、家族がいる人→障がい別で対応の見直しが必要。・障がい事業所に市より避難所へ行き、相談にのってあげて下さいというあいまいなメールが来た。重なる可能性もあり、どこに行けばいいか迷った。		
--	--	--	--

【豊平区地域部会】

平成30年11月27日 11月定例会 北海道胆振東部地震の振り返り グループワークまとめ（サービス別）

項目	できたこと	困ったこと	あったら良かったこと
停電	<ul style="list-style-type: none"> ・社用車で携帯の充電をした。 ・サ高住の電源で電気を確保した。また、職員同士でライトを融通した。（住宅） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ろうそく使いたい人がいたが、火事の危険があるので、利用させず（GH?） ・充電が出来なかった。 ・ガソリンの行列。 ・安心コールが使えなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手回し式の充電器 ・電子カルテなど、電気がなくなっても対応できるようにアナログ（紙ベース等）の対応をしておく。 ・ヘッドライトは良かった。
断水	<ul style="list-style-type: none"> ・GHの断水はずんどうで配ったり、袋で水を運んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレの水が流れなかった。 ・トイレ用の水が足りなくなった 	
食料	<ul style="list-style-type: none"> ・備蓄がたくさんあった（GH、就労系の事業所） 	<ul style="list-style-type: none"> ・おやつしかなかった。 ・食糧の調達が大変（GH系）。 ・送迎が出来なかったので休んだ（就労）。 ・利用者も含めてスーパーで並ぶ。（GH） ・3食の確保が大変（GH） ・入居者も食料を用意しておく。（自活できるように。） 	<ul style="list-style-type: none"> ・備蓄の食糧があったほうがいい。（児童） ・お米さえあれば何とかなる。（就労）
情報収集の方法など	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットでTV ・SMS（ショートメッセージサービス）はつながった。（業務連絡できた。） ・ラジオからの情報が有効的だった。 ・連絡先のわからない人の連絡先を区に教えてもらった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電池がなくてラジオが聞けなかった。ライトが無くて明かりが困った。携帯の充電ができなかった。 ・誤情報で利用者さんが不安になっていた。 ・SNSのデマが広まり困った。 ・公衆電話は繋がったので安否確認に使えた 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンビニ等で掲示板があれば良かったのでは？ ・福祉避難場所の場所を知っておくべきだった。（利用者に聞かれた。）
マンション等での移動	<ul style="list-style-type: none"> ・そもそも上階には住まないように勧めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1人のヘルパーでは移動は無理。 ・オートロックが開かなくなった。 ・物資を運ぶにしても高層階へは大変。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の住環境の確認。
交通手段（社用車の活用等）	<ul style="list-style-type: none"> ・車より自転車が使えた。バイクも良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外出を控えるように言っても、通所先に行く人を送った。（GH） 	<ul style="list-style-type: none"> ・信号が無い方が交通マナーが良い。 ・自転車は便利。

【豊平区地域部会】

<p>利用者の 安否確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問出来る人には訪問した。(利用者の近くのヘルパーがそれぞれ確認。遠くの利用者へは訪問して対応。)相談支援事業所も、訪問出来る人には訪問した。 ・人工呼吸器装着者など医療的なケアが必要な方はスムーズに連絡できた。 ・携帯に連絡先を入れておいたので、連絡で来た。 ・民生委員にも動ける人に動いてもらった例があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・病院に行ってもALSの人などコミュニケーション支援が必要だった。 ・利用者の安否確認が重なってしまった。(職員間の連携不足) ・固定電話しかない人は連絡が取れなかった。(直接訪問するしかなかった。) ・サービスに繋がっていない人への安否確認や対応を今後どうするのか。(相談) ・利用者の家庭状況を踏まえて連絡するべきだった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や町内会の安否確認。 ・バイクに乗れる人がいると安否確認早い。 ・利用者さんの安否確認の優先順位をつけておいたらよかった。 ・利用者さんの連絡先をネットで見られるようにしておく。(→個人情報保護の観点も必要)
<p>事業所の 体制・備え</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1週間前に避難訓練があったので、良かった。(GHで訓練で決めた避難所場所に集まっていた。)また、日ごろから事業所として町内会に参加しており、地震当日に町内の人が何名か見に来てくれた。 ・他の事業所の方から何かあったらスタッフも派遣できると連絡があり、ありがたかった。 ・蓄電池を使い、外来対応も可能だった。(医療) ・職員同士で連絡がとれた。(LINEの活用) ・落ち着いてから、利用者に避難地図などを配布した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所としての備蓄がなかった。 ・停電時の職員の動き(事故とか労災に該当するのかなど) 	<ul style="list-style-type: none"> ・百均のLEDランプがあったら良かった。 ・乾電池は備えておくべき。 ・連絡網があったら良かった。(就労) ・職員間のマニュアルがあったら良かった。 ・備えはしておくべき。避難所も確認しておくべき。 ・入居者同士もどうやり取りしていくか(GH) ・職員間の連携 ・避難所に行けない人のために、相談室に布団等備えておくともよいかも。 ・町内会や民生委員さんと連携できるようにしておく。(相談)
<p>事後の対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・心のケアのプリント配布(札幌市HP) ・避難所での経験を貴重なものとして捉えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・開所か安全か、判断がつかない。停電がなかったらやっていたのか、判断の難しさ(就労)。 	

【豊平区地域部会】

<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達は学校や事業所が怖い場所と認識しなかったので、通所に問題なかった。 ・開所出来た事業所は利用者が来てくれた（就労） ・ギター弾き語りやトランプをして過ごした（GH利用者同士の交流になった。） 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の災害時の対応能力が低いことがわかった。（知的障がいの方で、普段は出来ているが、応用が利かない。） ・在宅の重度の人の日中活動が休みになったので、ヘルパーの調整が大変だった。 ・避難所の利用について、身体障がいの方は避難所の利用が安心だと思うが、知的・精神などの方は環境が変わることで不安定になる。 ・サービス提供がなくなった（通所、ヘルパー等、提供してもらえなくなった。） 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段から今回のことを契機に、備えやスタッフが行けない時のことを考えておく。（居宅） ・同じ地域の事業所間の連携。（車の融通や食料の調達などの協力体制） ・避難地図に公衆電話の場所の記載があれば良い。
<p>確認してみたいことなど</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・GHは強い。そこに集まれないか。 ・ヘルパーの機動性は強い。役割分担で地域ごとに安否確認できないか？ 		<ul style="list-style-type: none"> ・近くの作業所さんがどうしていたのか。 ・他の作業所がどうしているのか、余裕がなくてわからなかった。 ・同じビルでもお休みのところがあった。 ・横で連携が取れていたらと感じた。

【豊平区地域部会】

平成30年12月11日 12月定例会 北海道胆振東部地震の振り返り グループワークまとめ（地域別）

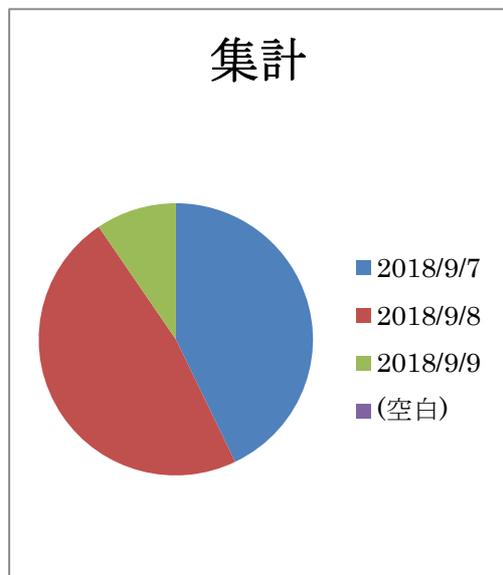
項目	できたこと	困ったこと	地域の特徴	あったら良かったこと
停電	<ul style="list-style-type: none"> ・病院に発電機が備えてあったのでよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・停電がいつまで続くか不安感。（特に児童） ⇒早くて7日、遅くて9日（時間差があった。） ・EVが動かず、食事をバケツリしーした。 	<ul style="list-style-type: none"> （平岸、南平岸） ・電気の復旧が早かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発電機までは事業所で用意するのは難しい。（メンテも重要。大変。） ・トランシーバーが欲しかった。
断水	<ul style="list-style-type: none"> ・断水時、出張所で水をもらえた。 ・隣のデイケアから水を運んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・病院の水がなかった。 		<ul style="list-style-type: none"> ・
食料	<ul style="list-style-type: none"> ・缶詰のストック、有効だった。 ・焼肉イベントの前に震災があったので、イベント感を出して不安を解消した。 ・食糧の備蓄、3日分あった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・薬が足りない。 ・きざみ食が大変（きざめない） 	<ul style="list-style-type: none"> （他区） ・コンビニ→アイスを配る（豊平区） ・冷蔵庫の食材を外で焼いて配る、販売する店も。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食糧を販売している場所の情報が欲しい。 ・保存食があったら良かった。
情報収集の方法など	<ul style="list-style-type: none"> ・車のラジオ 			<ul style="list-style-type: none"> ・普段から事業所見学などお互いに行っていきたい。（白石区は就労事業所見学会行っている模様） ・人が集まるコンビニ等で掲示板。
マンション等での移動				
交通手段（社用車の活用等）				
利用者の安否確認	<ul style="list-style-type: none"> ・紙カルテでよかった 			<ul style="list-style-type: none"> ・安否確認のツールはないのか？

【豊平区地域部会】

<p>事業所の体制・備え</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の対応、早かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難セットの中身が夏物だった。管理をしていなかった。 		<ul style="list-style-type: none"> ・フルーツ缶はショックで食欲がない時でも食べられるかも。また、あえて消費期限が短い（5年より1年）物を揃え、普段から食べ慣れておく ・避難セットを管理している人を固定しない。 ・避難セットは1か所にまとめる（みんなが分かるようにしておく。またみんなが使えるように普段から使ってみる） ・携帯は会社の違うものを2つつ？ ・長引けば、職員の確保が難しかった。
<p>事後の対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・製薬会社から簡易トイレをもらった。 ・職員にスマホを1人1台配布。 			<ul style="list-style-type: none"> ・発電機、暖房を購入した。
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・近くの事業所とやりとりあった。 ・地域の人に手書きでチラシを配り、昼食を食べに来たり、シャワーを浴びに来る人がいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊園小学校（避難所）が機能していなくて、皆、帰っていったとの話。 ・経営者として職員にどう指示を出したらよいか、迷った。 	<p>（豊平・美園・旭町）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所の数が多いので、非常時に連携できるように交流を深めていく。 <p>（平岸・南平岸）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に向けて健康相談会をしている。 ・除雪、ごみ拾いなど、普段から地域とつながりがある。 <p>（月寒・東月寒）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当日、月寒小に50人の方が避難所利用していた。 ・月寒公民館が機能していなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から情報・物の共有ができれば。 ・避難訓練毎月実施で体に染みつく。 ・各種災害があるので、事業所同士の連絡網（グループライン、MLも） ・各事業所の備蓄品のアンケート→貸出可能リスト作成→案内も ・普段からの繋がりを大切に（近辺、バス停の除雪など） ・事業所情報共有（ライン等）→事業所同士の管理者が繋がってそこから枝分かれ（地区別で集まる） ・地区別SNS ・町内会へ事業所から声をかけて「支援計画」作成へ

震災アンケート集計（21 事業所回答）

【停電・復旧状況】



行ラベル	データの個数 / 停電・復旧
2018/9/7	9
2018/9/8	10
2018/9/9	2
(空白)	
総計	21

【役に立ったこと】

- ・自動車からの電源確保ができたので、最小限携帯電話の充電に利用した
- ・懐中電灯があったこと
- ・ブレーカーを落としていた、冷蔵庫を開けなかった
- ・防災バッグがあったため使用できた
- ・ランタンの在庫が少なかったため利用者一人1個用意はできなかった
- ・各ホームに懐中電灯を置いていた事
- ・発電機所有
- ・手回し充電式ラジオ兼懐中電灯の使用、事業所内カメラが使用できたこと
- ・事業所内カメラ
- ・自家発電システムが止まらなかったこと

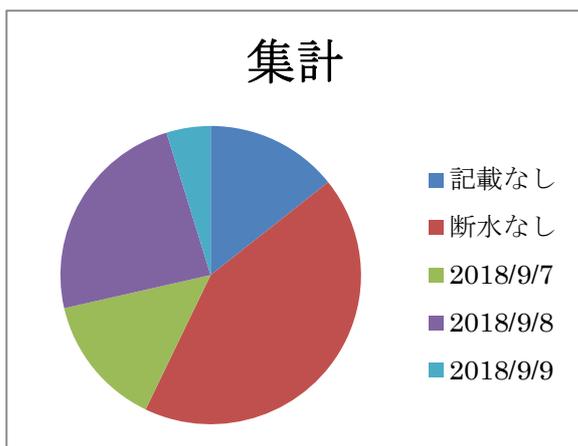
【今後につなげること】

- ・電気の動力を必要としない暖房、発電器具の整備
- ・乾電池の備蓄を増やす
- ・今後も同じような対応を取るよう職員内で確認する
- ・ランタンの備蓄増を行うことと、電池の予備が多くなかったため多めの電池の在庫を確保しておく
- ・入居者自身でも懐中電灯等の準備をしてもらう
- ・懐中電灯を複数個用意
- ・発電機(3台)購入予定

【清田区地域部会】

- ・LEDライト複数購入
- ・営業中の停電に備え懐中電灯を用意しておく
- ・ガソリンの備蓄
- ・乾電池の備蓄、電気不要の用具
- ・自家発電系統の見直し、タンクの増設他

【断水・復旧状況】



行ラベル	データの個数 / 断水・復旧
記載なし	3
断水なし	9
2018/9/7	3
2018/9/8	5
2018/9/9	1
総計	21

【役に立ったこと】

- ・断水はなかったものの、事業所近くに「有明の名水」があり、停電時でも給水できることを確認した。
- ・近くの公園で水を汲むことができた
- ・断水はしておらず（貯水槽の停止）、敷地内散水栓から水が出た。厨房での洗い物やトイレの水はそこから使用した
- ・井水のため施設内ポンプが停電により使用できないことがわかった。（市水も含め）
- ・ウォーターサーバーあり
- ・活用できた資源は、事業所近隣に「有明の名水」が湧き出ており、100円で汲み放題であった。今回は断水の影響はなかったものの備蓄と共に緊急の場合の場所の確認を行った。

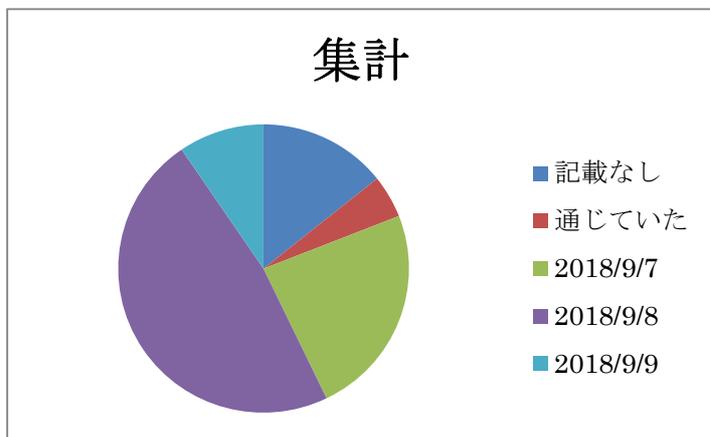
【今後につなげること】

- ・飲料水のほかに、トイレ等に使用する水の備蓄が必要である
- ・ペットボトル水を備蓄する
- ・水がなかったため今後のために水を買って備える
- ・透明なポリ容器が多くあれば、人が多くいる際に水を入れて貯めておくことができる。
- ・（通常井水を使用していたがポンプ使用できず）市水が使えないかを業者に確認、一か所使用できる給水栓があることがわかった
- ・30mホースの購入

【清田区地域部会】

- ・水の備蓄(飲み水／生活水)
- ・送水ポンプに自家発電系統を入れる

【固定電話・復旧状況】



行ラベル	データの個数 / 固定電話・復旧
記載なし	3
通じていた	1
2018/9/7	5
2018/9/8	10
2018/9/9	2
総計	21

【役に立ったこと】

- ・従業員間では携帯電話によるLINEにより情報の共有ができた
- ・災害直後は使用可能だった
- ・固定が使えなかったため携帯を使って連絡を行う
- ・ポータブル充電器・車での充電器がある人は充電ができた。固定電話は停電のため使用できない為施設の送迎用で使用していた携帯電話で利用者の安否確認を行った
- ・利用者の緊急連絡先で携帯電話を把握していたこと
- ・携帯電話の平日充電
- ・事業所用の携帯電話が使用できたこと。台数にも不便がなく系列店があり、その事業所の固定電話が使用できたこと
- ・違う区に系列店があったことにより、復旧状況が異なり、固定電話などが使用できたこと
- 固定電話が常に繋がったこと

【今後につなげること】

- ・携帯電話のバッテリー充電及び予備バッテリーの準備
- ・日頃から連絡を行える様に充電等を意識する
- ・手回しタイプのものがいくつかあったが、そのうち使用できないものがあった。ポータブル電源を常備するようにしたい
- ・メールの方が連絡とりやすい方もいたため今後につなげたい
- ・会社携帯の番号を周知させる
- ・電波の問題があったため、保護者への連絡ツールの確保を実施
- ・電話以外の一斉メール配信の導入

【清田区地域部会】

【移動手段】

行ラベル	データの個数 / 移動手段
開所できなかつたため影響なし	2
記載なし	3
自家用車所有職員は自家用車による移動・公共交通機関利用者は自宅待機	3
自動車	6
自動車・徒歩	1
職員～自家用車、利用者送迎(事業所)	1
信号復旧まで出勤できない職員がいた	1
徒歩、自家用車、社用車	1
徒歩、自転車、自家用車、社用車	1
臨時休業	2
総計	21

【役に立ったこと】

- ・燃料が入っていた
- ・車に損傷が見られなかつたため使うことができた
- ・環境の状況に合わせた移動手段が利用できた

【今後につなげること】

- ・車両に関し、今までは燃費を考え極力満タンは控えたが給油頻度を多くし、また携行缶等による備蓄をする
- ・ガソリンは常に半分以上は入れておく
- ・今後も車の点検を行っていく
- ・常にガソリンは満タンにしておくこと
- ・どの通勤路がスムーズかを把握しておく必要あり
- ・安全を確保しながら選択できる移動手段を準備していく
- ・土砂災害を想定した別道路用敷板の購入

【事業所の被災状況】

行ラベル	データの個数 / 事業所の被災状況
9/5 台風による倒木が施設周辺で多数	1
とくになし	6

【清田区地域部会】

以前より建物が揺れているように感じる	1
井水用加圧ポンプの破損	1
記載なし	1
軽微、備品落下等のみ	1
建物等には被害はないが転倒防止突っ張り棒はしていたものの食器等 飛出し破損	3
事務机などの書類が床に散乱、食器棚からの小皿等の落下破損、コピー機が 10 cm程移動、扉や引出等が開く	1
食器 20 枚が棚から落ちた	1
食器棚が倒れ食器が多数割れた、洗面台も壁からはがれ落ちた	1
水槽倒れ水こぼれたが破損なし	1
棚は倒れず、中の食器も割れていない	1
地面のひび割れ(数か所)	1
二階事務所の蛍光灯が落下し割れた、玄関の柱下部分の割れ、駐車場 地面の地割れ	1
総計	21

【役に立ったこと】

- ・防災への備えは考えるようになった
- ・市道沿いは高圧電線に倒木→北電に隣の施設が連絡して撤去
- ・市道沿いは高圧電線に倒木→北電に隣の施設が連絡して撤去

【今後につなげること】

- ・地震の横揺れに対する予防をすることにより物品の破損を防ぐことができる
- ・壊れ物の保管方法検討する
- ・割れやすい物の移動を行う
- ・倒れそうな棚などは固定する
- ・少しずつプラスチック製の食器に変更
- ・ハサミ等危ない物を落ちない場所にしまう
- ・なるべくつみ重ねしないで整理整頓、割れ物は高い位置の食器棚に収納しない。危険な場所(ストーブやガラス窓付近など)や開閉できなくなる扉の付近には設置しない、鍵がある物は鍵をかけ、鍵がない物は防災グッズを利用する
- ・定期的な施設点検の実施を今後も継続
- ・除去のため自分たちで倒木処理をしたが、高圧は危険すぎるのがわかった

【清田区地域部会】

【日頃よりの備蓄】

行ラベル	データの個数 / 日頃よりの備蓄
3日分×60名分	1
3日分の備蓄、冷蔵庫にある在庫	1
なし	2
開所できなかつたため影響なし	2
記載なし	2
在庫・非常食で対応し、影響なし	1
水・インスタント食品	1
水・お茶・お菓子	1
通所施設のため備蓄はなし	4
日頃より、飲料水を含め3日分備蓄	1
買い置きあり	1
備蓄用としては満足な量がなかつた	1
米	1
米、味噌	1
米、冷凍食品	1
総計	21

【役に立ったこと】

- ・おやつ等は備蓄がありサービス再開後の支障はなかつた
- ・水・インスタント食品の備蓄があつたこと
- ・冷蔵庫の物が腐る、溶けたものはなかつたため再開後はそれを使って食事を作る
- ・冷凍庫の物は回答されるまで使用しない。(保冷の為)在庫が多くあつたことと、法人敷地内他施設より炊き出しがあり備蓄をほぼ使用せず復旧まで持たせることができた
- ・定期的に業者に発注していた
- ・備蓄があつたこと
- ・備蓄があり食事に困ることはなかつた

【今後につなげること】

- ・緊急のため、水の備えまではなく開業することができなかつたため、考えていかなければならなし
- ・通所事業所においても防災グッズ(食に関する)の整備を行う
- ・今後も備蓄する
- ・水などがなかつたため後日水等の備蓄を買う
- ・カップ麺などの準備
- ・お弁当準備できない時のために補助食品としてカップラーメン補充
- ・備蓄用の食糧の準備を非難具の一環として準備

【清田区地域部会】

- ・保存食の常備を検討

【利用者の方への連絡・安否確認】

- ・臨時休業の連絡を職員から電話。電話がつかない利用者には近くの職員が自宅へ伺い安否確認をしている
- ・利用者宅への備蓄水を届がてら安否確認を行う
- ・管理者の携帯電話番号を保護者等に伝えており、全利用者宅へ安否確認及びサービス中止並びに再開の連絡を9月6日午前中に行った
- ・携帯が繋がっているうちにメール、電話で全保護者と連絡済み
- ・電話で連絡、直接利用者に会う
- ・単身生活者優先で自宅訪問し、安否確認、適時アドバイス
- ・SNSまたは携帯電話
- ・一人暮らしの利用者・連絡が取れない方については自宅を訪問。安否確認を行った。
- ・地震発生後30分以内に全員の安否確認終了
- ・地震当日利用予定者(6名)に電話。結果利用はなし。翌金曜は電話確認(8名)後に2名利用入所施設のため保護者への連絡を行ったが、固定電話が使えなかったため職員個人の携帯電話で行った
- ・9/6 連絡、9/8 連絡(安否確認、再開お知らせ)、HP
- ・電話
- ・携帯電話及びメールで確認するが、連絡が取れない方は、直接訪問し安否確認
- ・入所施設のためすぐに確認できた
- ・9/6 午後携帯電話から利用者へ安否確認を実施。9/10に再度安否確認、今後の利用についての相談、確認を行う
- ・9/6に当日利用者さま、この週利用者さまへの連絡 週明けに再度全利用者さまへの安否確認、今後の利用について説明
- ・入所者は問題なし。ご家族への安全連絡をする際につながらないなどがあった
- ・電話及び訪問

【役に立ったこと】

- ・利用者の通院等の計画と薬の残量を確認し、病院の開院の有無を確かめた
- ・全ての保護者の携帯電話番号を緊急連絡先として登録してもらっており、停電による音信不通の事態は避けることが出来た
- ・災害直後は携帯使用可能であった
- ・職員内での連携がとれていた為速やかに利用者へ連絡することができた
- ・住み込みの職員を配置していたので安否確認が早くできた
- ・携帯電話の台数が複数あったため少しでも早く連絡／安否確認をすることが出来た
- ・違う区に系列店があったことにより、復旧状況が異なり、固定電話などが使用できたこと

【清田区地域部会】

【今後につなげること】

- ・災害時における病院等の開院有無を利用者に伝える手法
- ・町内会等との連携により障がい者、高齢者の安否確認の手法
- ・即連絡を行う
- ・今後も避難訓練を行い、震災に対する意識を持つ
- ・災害等が起きたとき単身生活者への支援は優先
- ・可能な限り、安否確認を行っていく
- ・一人一人の状況を個別に確認していく
- ・発電機を購入し、充電できるようになるため在宅事業所の携帯電話を使用する
- ・今後も基本充電が常にできているようにする、スムーズに連絡を取る為、利用者全員の連絡先を携帯に入れておく
- ・電話連絡と同時進行できる連絡網ツールの確立を行った
- ・電話以外の一斉メール配信の導入

【その他】

- ・連絡網があることで利用者への連絡・安否確認がすぐに行えた。今後も活用していく
- ・今回の震災で電気の必要性を痛感した。時期が冬場で無かったことが幸いであったが、冬場を想定した備蓄、対応が必要と思われた。
- ・シャッターが電動のため開かず、事業所で行っているパン製造厨房へ入ることができなかった。停電で冷凍庫の電源が入らず冷凍パンが全て解凍、発酵された
- ・心理スタッフより体と心のケアの必要性についてお知らせを配布した

【役に立ったこと】

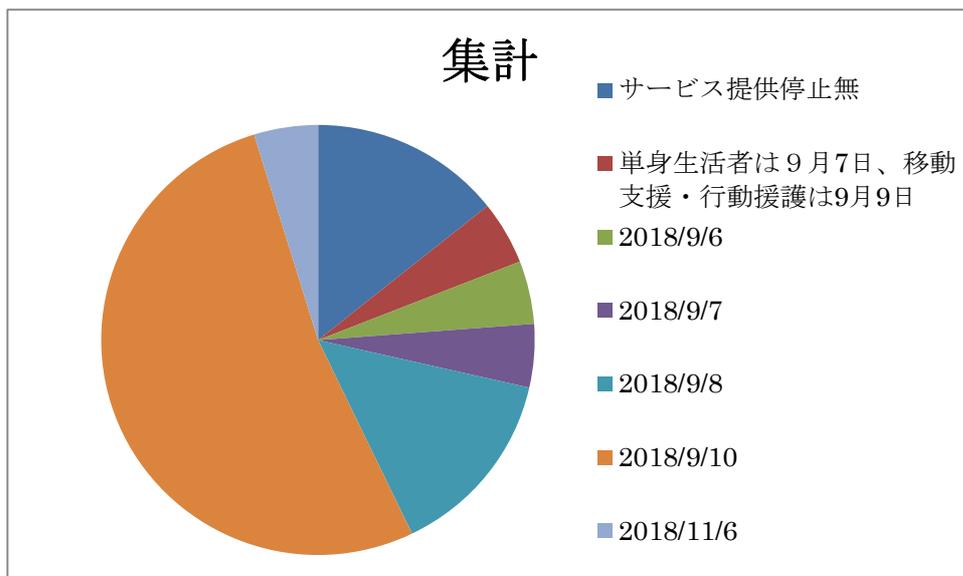
- ・懐中電灯・ラジオがとても役立った
- ・心理スタッフが心のケアを担当できたこと
- ・発電機所有、ラジオ・懐中電灯等所有・乾電池所有

【今後につなげること】

- ・厨房シャッターを常に 1/4 程度開けておく
- ・軽油・ガソリンの備蓄、おむつ等の備蓄
- ・非常用ライトの購入等、非常災害時対策備品の整備

【サービス提供再開日】

【清田区地域部会】



行ラベル	データの個数 / サービス提供再開日
サービス提供停止無	3
単身生活者は9月7日、移動支援・行動援護は9月9日	1
2018/9/6	1
2018/9/7	1
2018/9/8	3
2018/9/10	11
2018/11/6	1
総計	21

アンケートにご協力いただきありがとうございました。

札幌市自立支援協議会 南区地域部会

北海道胆振東部地震を振り返って

平成 31 年 4 月 1 日

項目	実際の対応	課題
停電	<ul style="list-style-type: none"> ・ 予備電源を使用。大きな混乱につながらなかった。 ・ 情報収集をするためにもスマホを利用するため、車で充電できるよう対応。また、地域の方々にも開放。 ・ スマホを充電することが出来ずに困った。 ・ 人工呼吸器の方は、普段から通院している病院に緊急入院。 ・ 医療的処置が必要ない重度障がい者の受入場所がなく、なんとか自宅で過ごした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スマホの充電需要がとて多かった。 ・ 停電となり、情報収集するツールがスマホに限られてしまった。 ・ 重度障がい者の受入場所がなかった。
断水	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分で水を調達できない方に対して、近隣の給水所まで、送迎し、水を確保。 ・ 近隣住民に水の提供を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水を入れる入れ物が少なかった。 ・ 高層階に水を運ぶことがとても大変。一人で大量の水を運ぶことが出来ない。
食料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 近隣のコンビニにて購入 ・ 食料の備蓄があり、通所した利用者に食事の提供を行った。 ・ 職員にて他区のスーパーにまで行き、食材を集めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれの居住系サービス事業所では、最低限の食料備蓄が必要。
通信手段	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電話、パソコンが使えず、自宅等へ直接訪問 ・ スマホで情報収集 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入所施設など、受け入れ態勢が整っていても効果的に情報を発信することが出来なかった。

【南区地域部会】

		<ul style="list-style-type: none"> ・各事業所等での取り組みを発信することができなかつた。 ・連絡先一覧を紙ベースで準備する必要がある。
<p>移動手段</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・車を使用 ・公共交通機関が止まっており、出勤出来ない職員もいた。 ・公共交通機関が止まっているため、職員送迎を施設職員が行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ガソリンの備蓄が必要。 ・信号がついておらず、車での移動に時間がかかる。
<p>安否確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅へ訪問 	<ul style="list-style-type: none"> ・範囲が広く、すべての方の安否確認が困難。 ・安否確認が必要な利用者のピックアップが必要。
<p>事業所の体制・備え</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食料、燃料等の備蓄があり、大きな混乱にはならなかつた。 ・学校の体育館を避難所として開放。 ・停電のため、事業所は休止した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の体育館の避難所は、障がい者にとって、とても使いづらいものであることが分かった。 ・避難所に行くとしても、自分の必要なものは自分で持っていく必要がある。 ・受け入れた際、利用者にはどのような介護、医療的対応が必要か分からない。
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルパー自身が被災している中、利用者の支援を行った。 ・まずは、自助努力が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヘルパー自身が被災している。 ・道路が寸断されると行くことが出来ない地域がある。 ・事業所同士の連携が密であれば、物のやり取りが出来たのでは？

西区地域部会全体会

日 時:平成30年11月22日(木)18:00～20:00

場 所:西区役所 4階第3会議室

参加人数:50名

内 容:9・6北海道胆振東部地震を振り返る

① 講演「北海道胆振東部地震における西区役所の対応」

講師:西区役所保健福祉課地域福祉係長 久保田研介氏

② グループ・ワーク(7グループ)

A・Bグループ 就労系

Cグループ 児童系

Dグループ 学校・当事者家族

Eグループ 入所施設・通所系

F・Gグループ 地域包括・居宅介護支援・相談支援・医療・訪問系

＜グループ・ワークまとめ(項目別・グループ別)＞

項目	実際の対応 (どう動いたか、動けたか)	課題 (どう動くべきだったか、動いていくか)
----	------------------------	---------------------------

停電	<p>【Aグループ 就労系】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紙ベースでの緊急連絡の名簿があり、電話で連絡。 ・単身者、要支援が必要な人を招集、迎えに行った。 ・懐中電灯・電池配布 ・通電火災に備え、ブレーカーを落とした。 <p>【Bグループ 就労系】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所のオートロックが開かず。停電回復したのが金曜日の夕方。弁当の食材が大変で、メニューを組み合わせで作った。 ・食材も温めにIHを利用しており、停電で何もできなかった。 <p>【Cグループ 児童系】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GHは入居者がいるため停電時に自家発電が使えるようになっている。 ・他の事業所は停電のため学校に合わ 	<p>【Aグループ 就労系】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連絡用のメーリングリストを作っていたが、停電でPCの利用が不可だった。 ・Wi-Fiも電源が入らず、利用ができなかった。 ・停電で、固定電話も利用ができなかった。 <p>【Cグループ 児童系】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冬場の停電時には暖房が使えないため、ガスボンベ用の暖房器や電池式のランタンなど準備をする。 ・給食のためには防災クッキングを取り入れたい。 <p>【Dグループ 学校・当事者家族】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電力の復旧が遅かったため、自家発電などの備えが必要ではないか。 ・太陽光パネルを持っている小学校があったが、使用するための切替方法を知らな
-----------	---	---

<p>せて休園にした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1か所のみ初日から3家族受け入れ。 <p>【Dグループ 学校・当事者家族】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・携帯充電を目的とした避難所来所が何件か有った。(西区は甚大な被害はなかったが、停電の影響が大きかったと思われる) ・電力が復旧していなかったため、車で充電を行なった。 ・学校の発電機を動かし医療的ケア児の電力を確保した(北翔養護学校) <p>【Eグループ 入所施設・通所系】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入所施設が本体で、復旧早かった。他に複数のGHあり、本体の機能・備蓄等でカバーした。 ・通所事業はオール電化のため、休業とした。 ・非常電源はスプリンクラーなどのみ、照明はランタンを使用。非常電源の軽油調達が大変だった。 ・配膳エレベータ使用できず、すべて手運びで対応。 <p>【Fグループ 地域包括・居宅介護支援・相談支援・医療・訪問系】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問職員は半分程の出勤。 ・パソコンは不能 ⇒紙面ベースの資料が頼り。 ・電話等の通信機器は不能+充電不可⇒訪問 ・集合住宅で昇降機は不動。 <p>【Gグループ 地域包括・居宅介護支援・相談支援・医療・訪問系】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PC,一般電話が不通。携帯電話もAU以外は不通。そのため9/6は16時には建物内が暗くなったため、業務終了 ・アパートの一室を借りていたため、9/6 ～7停電のため、PC類は一切使用でき 	<p>い学校もあり、実際に使えなかったところもあったらしい。事前の把握に努めるべき。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各事業所ごと、ソーラーパネル式充電器(1万円?)を普段から持つておく。 ・電気暖房や電気を使うトイレ・水道は全く使えなくなるため対策が必要。特に、冬の災害に向けての対策が必要。 <p>【Eグループ 入所施設・通所系】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発電機の購入も検討しているが、いざ使用する場面で燃料が確保できるのか。 ・電力会社も対応を再整備することが予想され、ブラックアウトが再び起こる可能性は低いのでは。 ・ガスボンベ、カセットボンベ使用で発電できる発電機もある。 ・ランタンなどは数を増やすことも検討。 ・利用者のための備蓄だけでなく、非常時に働いている職員のための食料備蓄も検討したい。 <p>【Fグループ 地域包括・居宅介護支援・相談支援・医療・訪問系】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電池や充電機器の備え。 ・事業所内の連絡手段・連絡網を作成。 ・個人情報の一部(連絡先)を书面化して保管。 <p>【Gグループ 地域包括・居宅介護支援・相談支援・医療・訪問系】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ランタンなど照明類があればもう少しハイリスクケース抽出はできたと思われる。今後、発電機の購入を検討中。ただ都合上、小型と思われる。 ・病院は自家発電で使用可能であったため、運用には問題なかったが、長期に及んだ場合は、人工呼吸器の方のアンビューなどの対応が必要だった。 ・自衛隊からの支援もあった。 ・通信機器(固定電話)、固定パソコン機器
--	---

	<p>ず、通常業務は中止。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場の携帯は使えていたため、連絡に使用。 ・自家発電機を使用したか、軽油が必要なため、スタッフが手分けしてガソリンスタンドへ調達に回った。 ・電力節約のため、スタッフのみのフロアの照明等は付けずに、ランタンや懐中電灯を使用。 	<p>使用不能による連絡手段</p> <ul style="list-style-type: none"> ・停電時の情報収集方法 ・利用者・事業所等の緊急連絡先リスト(紙ベース)の準備 ・利用者緊急時の連絡体制と優先順位リストの整備(紙ベース)
<p>断水</p>	<p>【Aグループ 就労系】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・断水による影響なし、地震後浴槽に水を張ることを指示。 ・事業所がマンションにあるので、断水。 <p>【Bグループ 就労系】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場所により、水を利用できたところもあった。 ・ビル自体が断水。洗い物ができず使い捨て容器を利用した。 ・水が出るところから、バケツリレーで水を確保した。 <p>【Cグループ 児童系】</p> <p>事業所は断水はしなかったが、マンションなどの家庭には水を届けたりした。</p> <p>【Dグループ 学校・当事者家族】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポンプ室が止まったため、教職員で水を運び貯水をした。 <p>【Eグループ 入所施設・通所系】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地下水をポンプで汲み上げ使用しているが、ポンプが電動であり停電中は使用できなかつた。 ・ポンプが使えなくなり、皆で水を運んだ。 <p>【Fグループ 地域包括・居宅介護支援・相談支援・医療・訪問系】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マンションで発生 	<p>【Aグループ 就労系】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所としての水の備蓄 ・個人個人の家庭での水の備蓄 <p>【Bグループ 就労系】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・40Lほど備蓄してあつた。 <p>【Cグループ 児童系】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後は水の保管やお風呂の水を取っておくなど万が一のために準備する。 <p>【Dグループ 学校・当事者家族】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・停電による断水への対策が必要。 <p>【Eグループ 入所施設・通所系】</p> <p>【Fグループ 地域包括・居宅介護支援・相談支援・医療・訪問系】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水の備蓄。 <p>【Gグループ 地域包括・居宅介護支援・相談支援・医療・訪問系】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対応策としては、「水が出れば」洗ったペットボトル、1.5ℓ分の水を入れて持ち運ぶこともできるが、ペットボトルの本数も限界があるので、ボトルごと渡すのではなく本人宅にある、なべ・フライパンに水を移し替えてボトルは持ち帰る。ただ職員が運ぶ水の量も限界がある。 ・今後も断水が無ければ同様の対応予定。 ・自宅からペットボトルの空きがあつたものを持参し、安否確認時に持っていった。

	<p>⇒生活用水を自ら供給できない自宅に水を配給。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレは大変な事に。 <p>【Gグループ 地域包括・居宅介護支援・相談支援・医療・訪問系】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・センター内は支障なし。 ・ただ高層MS居住のケース数名が断水した為、空のペットボトルを洗浄し職員一人当たり最大2リットル程度搬送。但し、住民レベルで高齢の人達に対して水を搬 ・アパートの水道は問題なかった。 ・水道の備蓄はない。送していた話しも聞いた。 ・断水はなかったため、通常通り水道の使用が可能であった。念のため、非常用としてポリタンクに水を貯めておいた。 	
<p>食料</p>	<p>【Aグループ 就労系】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストックしていた物を一人暮らしの人へ配布 <p>【Bグループ 就労系】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・炊き出しの対応を行った。 ・利用者を事業所に集合させて、事業所の備蓄で必要なものを配布した。 <p>【Cグループ 児童系】</p> <p>GHは調理ができず食事提供できないため、お迎えに来てもらった。1日預かりの日は午前中のみ開所。逆に家族からおやつなど差し入れをもらった。</p> <p>【Dグループ 学校・当事者家族】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所の指定はあるものの、備蓄庫の中に何があるのか把握できていなかった。毛布が使えなかった。 ・食料の備蓄はある程度あった(自宅) <p>【Eグループ 入所施設・通所系】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通所事業を休業としたため余った食料をGHにまわした。 	<p>【Aグループ 就労系】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米の備蓄 ・GHの入居者と備蓄の確認(賞味期限) <p>【Bグループ 就労系】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リスク分散のため、備蓄を事業毎の建物ごとに分散して保管しているが、目安の3日間の備蓄となると準備が難しい。 ・事業所によって食材はあった。地域の住民に提供した。 <p>【Cグループ 児童系】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カセットコンロの準備。 ・日中の預かりの場合、食料品はどの程度準備するのか検討中。 <p>【Dグループ 学校・当事者家族】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・備蓄庫の中の備品と活用方法を事前に把握しておく。 <p>【Eグループ 入所施設・通所系】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食糧備蓄は常に古くなりそうなものを消費しながら、こまめに補充・更新している。

<p>・入所者の食事は委託会社がガス使用で調理してくれた。非常食3日分と、委託会社のグループ工場にも備蓄あり、食材に困ることなかった。食事に不自由なかったことで、利用者も不便を感じている様子なく安定していた。</p> <p>・ミキサー食の利用者のための調理でミキサー使用できず、ドラッグストアで離乳食を調達。</p> <p>・入所や通所の建物が核となり、ガスで調理、GHIにも調達した。</p> <p>・食材はストック分と業者からでまかなうことができた。</p> <p>【Fグループ 地域包括・居宅介護支援・相談支援・医療・訪問系】</p> <p>・高齢者は用意や手配が難しい ⇒食糧不足がある家庭を優先して可能な限り、物資を提供(区役所からアルファ米の支給)。</p> <p>【Gグループ 地域包括・居宅介護支援・相談支援・医療・訪問系】</p> <p>・元々備蓄義務が無い為、備蓄なし。 ただ利用者で食料が途切れそうな人がいる可能性があったため、まちづくりセンターに相談しアルファ米30食弱を入手、数名の利用者に対し配布。ただ殆どの高齢者は元々、食料を備蓄する傾向にあったので2~3日程度なら困らないと返答があった。</p> <p>・居宅として備蓄なし。</p> <p>・患者様の食事の準備は可能であった。 出勤していた職員の食糧の調達が困難で、スタッフで手分けしてスーパーやコンビニで購入した。</p>	<p>・ミキサー食用の非常食として、レトルトなどの離乳食を備蓄品に追加した。</p> <p>【Fグループ 地域包括・居宅介護支援・相談支援・医療・訪問系】</p> <p>・個々の家庭や事業所単位で備蓄が望ましい。 ※行政に相談。</p> <p>・食料の入手方法を調査・確認。</p> <p>【Gグループ 地域包括・居宅介護支援・相談支援・医療・訪問系】</p> <p>・食料備蓄のスペースも無いので災害時、地域住民に対し、今後も食料備蓄は不可能。</p> <p>・一人暮らしの方のために自費で購入できたパンなどを安否確認の祭に持って行ったが、長期に及んだ場合は難しい。</p>
--	--

<p>移動 手段 (マンション・交通機関)</p>	<p>【Aグループ 就労系】 ・送迎のガソリンを考えて出来るだけ車を動かさなかった。</p> <p>【Bグループ 就労系】 ・ほぼ車で移動していた。運よく給油は済んでいたが、停電で信号が動いておらず怖かった。 ・上層階住みの車いす利用者へ対応が大変だった。</p> <p>【Cグループ 児童系】 ・連絡のつく職員はいたが、信号が停止しているため「職員に危険・送迎中の危険」を勘案して徒歩で出勤できるものに限定した。 ・GHで自宅へ返す場合は信号機のない道を選んだ。時間はかかった。</p> <p>【Dグループ 学校・当事者家族】</p> <p>【Eグループ 入所施設・通所系】</p> <p>【Fグループ 地域包括・居宅介護支援・相談支援・医療・訪問系】 ・出勤や移動の妨げ。 ⇒車輛・自転車・徒歩での出勤や安否確認 ・信号機が不能、移動に危険が伴う。 ・エレベーターが不能。</p> <p>【Gグループ 地域包括・居宅介護支援・相談支援・医療・訪問系】 ・車のガソリンが満タンにしていたため、安否確認に使用。 ・スタッフは通勤に車を使用しており、全員が出勤できた。 ・院内のエレベーターはストップ。面会のご家族には階段を使用していただいた。</p>	<p>【Aグループ 就労系】 ・信号の停止している中での車の使用 ・職員参集について</p> <p>【Bグループ 就労系】 ・普段から給油を行っておくことが必要と知った。半分になったら給油するルールを設けた。 ・真冬の日中に地下鉄が止まったら。。。冬場の送迎中に震災が起き、避難所に送る対応や、車いす利用者への介助が必要となる。 ・事業所の場所をビル1Fがよいのか？新規事業所の為、震災の想定まで追いついていなかった。</p> <p>【Cグループ 児童系】 ・事業所からの連絡がつかない場合もあるので、緊急時には家庭からお休みの連絡をしてもらうような仕組みを考えたい。 ・送迎車のガソリンは半分以下になったら給油をする。</p> <p>【Dグループ 学校・当事者家族】</p> <p>【Eグループ 入所施設・通所系】</p> <p>【Fグループ 地域包括・居宅介護支援・相談支援・医療・訪問系】 ・ガソリン補充を意識化 ・自転車を事業所で所有</p> <p>【Gグループ 地域包括・居宅介護支援・相談支援・医療・訪問系】 ・普段からガソリンは満タンに近い状態に維持する必要がある(シガーソケットから、スマホの充電をするのに役立った) ・八軒内は一人で移動し、それ以外は安否確認のため二人で移動した。 ・震災時の職員の出勤義務について、状況判断が必要(職員の居住地)であり、法人の職員に対する配慮(危険回避・安全配慮)も必要。 ・信号機停電時の車両出勤の是非</p>
-----------------------------------	--	---

<p>安否 確認</p>	<p>【Aグループ 就労系】 ・全て連絡できた。 ・家族のいる人は安否確認のみ。 ・単身者は、事業所に連れてきた ・PCホームページで閉所案内</p> <p>【Bグループ 就労系】 ・事業所が休みとなる旨を携帯でおこなった。 ・携帯を持っていない利用者もあり、連絡に困った。 ・停電で連絡が取れず(固定電話のみの利用者)。 ・独居の人を迎えに行き、事業所へ一度集合してもらい安否確認を行った。</p> <p>【Cグループ 児童系】 ・メールの活用で休園など知らせた。連絡のつかない家庭は避難所も回り開始日も伝えた。 ・すべての単身者には本人や事業所を通じて安否確認をした。</p> <p>【Dグループ 学校・当事者家族】 ・身寄りのいない、近隣に家族や頼れる知人のいない、福祉/医療サービス(訪問系)を利用していない利用者、医療的ケアが必要な利用者を中心に安否確認を行なった。(相談室)</p> <p>【Eグループ 入所施設・通所系】</p> <p>【Fグループ 地域包括・居宅介護支援・相談支援・医療・訪問系】 ・独居や高齢夫婦、家族が遠方等の希薄な家族介護体制にあるご家庭への訪問 ⇒優先順位+担当者別+担当者不在分は職員間で手分け。 ・電話は通電していない⇒訪問</p> <p>【Gグループ 地域包括・居宅介護支援・相談支援・医療・訪問系】 9/6は電話が止まっている為、ハイリス</p>	<p>【Aグループ 就労系】 ・連絡先の電話番号は有ったが住所が無なくて訪問に手間取った。 ・今後住所記載し、連絡網整備 ・公衆電話の利用。</p> <p>【Bグループ 就労系】 ・連絡リストの作成 ・利用者から事業所へ連絡をもらえるようにした。 ・防災ダイヤルの利用を促している。</p> <p>【Cグループ 児童系】 ・事業所としてどこまでやるべきか検討中。 ・携帯の伝言板の利用を検討。家屋からの発信もスムーズにしてもらえるよう連絡も等見直し。</p> <p>【Dグループ 学校・当事者家族】 ・町内会により格差があると思うが、要配慮者の名簿の共有がどこまで進んでいるのか。今回、要配慮者への支援は地域の民生委員などでどこまでできていたのか。今後の災害対応に向けて活かしていく必要がある。</p> <p>【Eグループ 入所施設・通所系】</p> <p>【Fグループ 地域包括・居宅介護支援・相談支援・医療・訪問系】 ・安否確認者のリスト化、優先順位を予め事業所の規定として明確化。 ・地域(見守り隊)や事業所間の連携</p> <p>【Gグループ 地域包括・居宅介護支援・相談支援・医療・訪問系】 ・然程大きな被害が無く、訪問数をこなすために単独訪問としていたが、他の期間の動きを聞くと安全のため2人訪問としていた事を聞くと、 ・携帯の本人・家族の充電を考慮し、他事業所や併設している訪看と連携をとって重複しないようにしたが、連絡がつかない業</p>
------------------	---	---

	<p>クケースを優先に直接訪問し確認。 翌9/7の朝にセンターの電気、電話が復旧したが、先方が復旧していない事もあったので電話が繋がらない人は直接訪問。 繋がる人は電話で安否確認とした。 ・9/6は電話で全員に連絡。(独居老々介護を優先して)。 連絡がつかない方には車で直接確認にいった。 ・電話が不通であったため、外来患者様については、スタッフ手分けして、自宅訪問をした。</p>	<p>者もあり重複した方もいた。 ・9/6固定電話停電のため携帯電話使用し連絡→着信になるが出ない利用者が多かった。(携帯電話番号を知らせていないため?) ・利用者へ法人携帯電話番号の伝え方(範囲) ・福祉サービス事業所との情報共有・連携(サービス提供状況、安否確認等) ・利用者への災害時・緊急時の連絡方法等について事前のお知らせ</p>
<p>事業所の体制・備え</p>	<p>【Aグループ 就労系】 ・モバイルバッテリーや発電機は備えていた。 ・建物の安全確認を行った。 ・常に避難訓練をおこなっていた。 ・グループウェア(職員) ・PCでのライン(利用者) 【Bグループ 就労系】 ・今年6月に開所。震災への備えが不十分と感じる。また、電気を利用した事業運営となっているため、電気に依存していることを痛感した。 ・グループホームで対応する準備は進めていた。 【Cグループ 児童系】 ・遠方の職員は通勤に危険を伴うため出勤を躊躇した。(送迎についても同じ考え) 【Dグループ 学校・当事者家族】 ・中学校の体育館には柔道の畳があったので、それをマットレス代わりに活用できた。 【Eグループ 入所施設・通所系】 ・職員の全員召集は無理だった。停電の</p>	<p>【Aグループ 就労系】 ・マニュアルの作成(夜間・日中想定) ・利用者とのライン ・スマホ→緊急時用のアカウント ・冬の災害への対応 ・地域の実情を把握し、地域支援。 スタッフが連絡が取れなくても、担当割で地域の事業所で支援する。 ・ガソリンのストック ・電気を使わないストーブ ・備品リストの作成 ・地域にある事業所同志の連携 ・利用者が近くにある事業所施設へ行く ・法人として何をすべきか、地域として何をすべきか。 【Bグループ 就労系】 ・事業所利用者が少人数であったため、対応ができた。 ・備品を検討し、揃えた。 ・真冬のことを考え、ストーブの準備を行った。 ・定期の避難訓練 【Cグループ 児童系】 冬場の停電を想定した準備を考える。管理者がみんなに連絡するのでは無く、連</p>

<p>中、夜間帯の出勤による事故等を心配し、いつもの出勤時間を指示した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族に障害者等いる職員は、その家族がGHやショートから戻されたり、通所が休みになることで出勤できない状況も発生した。 ・生活介護は休み、短期入所とGHは自宅に帰ってもらった。(GHは新規稼働ばかりで、備蓄がまったくなく、安全面も確認できていなかったため) ・利用者を自宅に帰すにあたり、保護者と連絡がつかなかった。保護者宅でも停電や断水となっており、利用者が帰ることに困惑の様子もあった。 ・通所事業は食事・入浴提供できず休業にしたが、単身者への対応は最後まで躊躇した。 ・通所事業を休業にしたので、その職員に買い出しや入所の応援にまわってもらった。 ・災害時の出勤体制のルールなかったが、自主的に集まった。 ・複数のGHにそれぞれ待機職員いるが、それぞれに連絡するのが大変だった。 <p>【Fグループ 地域包括・居宅介護支援・相談支援・医療・訪問系】</p>	<p>絡も、担当決め等検討。</p> <p>【Dグループ 学校・当事者家族】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所である学校体育館は広いが、ストーブが2台しかなく、真冬は足りない。避難所として大丈夫なのか。 ・真冬などは体育館では寒いので、小さな部屋や教室で暖を取る必要もある。(換気に注意) <p>【Eグループ 入所施設・通所系】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通所やGH等複数事業展開している、グループ内で流動的に人員動かすことができればよかった。 ・食糧備蓄や安全面確認、利用者を帰さなくてもよい体制を整備する。逆に保護者の避難も受け入れられるような体制を目指す。 ・非常時にもより有効な連絡手段を検討できるのでは。スマートフォンより携帯電話の方が電池消耗少なく、ワンセグテレビの視聴も可能。 ・非常時の連絡手段として、複数の携帯会社と契約することも検討。 ・災害時の出勤体制について、改めてルールを作る。 <p>【Fグループ 地域包括・居宅介護支援・相談支援・医療・訪問系】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一年に一度は職員間の連絡網の更新作業。メールは機能・有効であった。 ・充電器や発電機や懐中電灯等の備え。 ・理想として福祉町内の構築。地域単位で身動きできる体制や仕組みの構成・組織化。民生委員や福祉従事者間の交流。 <p>【Gグループ 地域包括・居宅介護支援・相談支援・医療・訪問系】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害マニュアルを整備中。 ・管理者自身が連絡不能の他、罹災する事も想定されるので管理者不在時の対応についてもマニュアル整備に盛り込む事と
---	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・充電や発電の準備不足。 ・情報収集の手段が欠如。 【Gグループ 地域包括・居宅介護支援・相談支援・医療・訪問系】 ・管理者自身の携帯が不通となり職員、事業所に連絡取る事も出来なかった。 ・22名中、近隣に住む9～10名の職員が出勤する事ができていた。後は揃った職員で現場で判断し安否確認開始とした。 ・病院が母体のためマニュアルに沿って対応した。 ・マニュアルはなし。 ・懐中電灯は常備。 	<p>する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災用品の購入も準備中。 ・市内の震度に差があり、スタッフの認識にズレがあった。
<p>事後 対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> 【Aグループ 就労系】 ・利用者のメンタルケア 【Bグループ 就労系】 ・電気が無くても、日中の日の光で軽作業を行っていた。 ・月曜日から、通常営業。震災の余震に気を付けながら行っていた。 【Cグループ 児童系】 各事業所で災害時の対応や準備の話し合いがもたれている。 【Dグループ 学校・当事者家族】 ・恐怖心や、逆にハイテンションとなる生徒も多くいたため、全クラスにスクールカウンセラーの対応を行なった。 【Eグループ 入所施設・通所系】 【Fグループ 地域包括・居宅介護支援・相談支援・医療・訪問系】 ・アンケート調査(ワン・オール) 【Gグループ 地域包括・居宅介護支 	<ul style="list-style-type: none"> 【Aグループ 就労系】 【Bグループ 就労系】 【Cグループ 児童系】 ・防災マニュアルを作成中。お便りで非常時の対応等の情報提供した。 【Dグループ 学校・当事者家族】 ・不安でトイレに行けなくなった・眠れない・フラッシュバック等がある生徒がいたので、心のケアなどの対応が必要。 ・自閉症圏の人などがパニックになった際の対応方法を事前に把握しておく。また、本人にも災害や臨時の事態に関する事前学習(準備)を行なっておく必要がある。(ただし、その内容が本人の中でパターン化されて入ってしまうと、事前学習と異なる事態が発生した際により混乱するので、学び方に留意する) 【Eグループ 入所施設・通所系】 【Fグループ 地域包括・居宅介護支援・相談支援・医療・訪問系】 ・ガイドラインの作成を検証中。 【Gグループ 地域包括・居宅介護支援・

	<p>援・相談支援・医療・訪問系】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安否確認を進めながら、介護保険のレセプト処理が重なる時期だったので、多忙を極めた。 ・9/6、7でサービスを受けられなかった方の事業所の対応も確認しながら訪問にあたった。 ・院内幹部にて振り返りを行い、今後の対応策について話し合いを実施。災害マニュアルを作成予定。 	<p>相談支援・医療・訪問系】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・札幌市が札幌市の地域包括向けのマニュアル整備するという話しは現時点では出していない(各法人判断となっている)。 ・水の備蓄を数本行っている。早めの充電、ガソリンの補充するようにしている。
<p>その他</p>	<p>【Aグループ 就労系】</p> <p>【Bグループ 就労系】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取引先への調整、連絡で苦慮した。 ・情報収集は車のラジオやTV ・建物としてのダメージはなかった。 ・区によって被害の差があった。情報が無いと、自分が見たものがすべてと思った。 ・利用者への心のケアについて。一人はパニックを起こした。就職が決まっていた方もいたが、怖いと言いつれてしまったケースも。 <p>【Cグループ 児童系】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害後の不安要素の聞き取りをした。 <p>【Dグループ 学校・当事者家族】</p> <p><学校の動き></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震発生後に学校に向かい、防火扉や避難所開設等の対応を行なった。明け方に母子世帯の4人(母1、子3)が避難所に来所し、校長、教頭で1泊し対応を行なった。(他教職員は自宅待機としていたが、その後招集し水汲み等の対応) <p>【Eグループ 入所施設・通所系】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通所利用者(高齢者)は、地域と繋がりが強く、助けてもらっている人もいた。 ・連絡手段に苦労した。携帯等は携帯 	<p>【Aグループ 就労系】</p> <p>【Bグループ 就労系】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連絡体制の構築。 ・備えていたが、実際起きてみると足りないことが分かったため、見直しが必要。施設外就労の活動中だと、事業所と場所が離れているため、日中活動中に震災が起きると大変なことが想定される。 ・グループホームでは、仲間がいたため、混乱なく、和気あいあいとしていた。 <p>【Cグループ 児童系】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所がお休みで職員の手がある時には避難所等で活用する。など災害時に自分のできることを登録して派遣するなど西区部会で登録制を考える。 <p>【Dグループ 学校・当事者家族】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所の運営など、どう動いたら良いのかわからない。動き方などのマニュアルがほしい。(学校) ・ちょうど地震の前日に区職員と学校で避難所としての打合せ(年1回)があった。これは物資の補充等を共有するだけなので、今後冬の災害なども想定し、本格的な避難所運営について行政と避難所の学校とで打合せをしていけたら良い。 ・行政職員も学校の教員も、福祉の専門家ではないため、障害などで困っている方の対応で分からないことは多くある。相談

<p>会社の違いや使用場所等でも繋がらなかつたりした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者は電気が使えないことが理解できず、苛立ちも見られた。 <p>【Fグループ 地域包括・居宅介護支援・相談支援・医療・訪問系】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービス提供の不可(中止)を訪問して通知。 ・意外に利用者(高齢者)は混乱なく気丈。 <p>【Gグループ 地域包括・居宅介護支援・相談支援・医療・訪問系】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難所の受け入れ先、給水設備場所、給油対応できるガスステーションが西区役所に随時張り出され更新されていたので、職員が交代で情報収集しセンターの壁一面に掲示して全職員が分かるようにした。 ・入退院の対応は全てキャンセルとした。外来は週明けより再開。 	<p>室や福祉の事業所と連携していけたらよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談室や地域支援員として、災害時の避難所を訪問し障がいなどで困っている方の調整や避難所職員への助言を行なっていきたい。 ・障がい者やその家族としては、「避難所に行っても対応してもらえない」と思っている人が多い。今後、「避難所の中に福祉避難スペースがあること」を当事者たちにも周知していく必要がある。 ・避難所の中でマットレスをもらった障がい者に対し一般の方々が文句を言ったり、ひがんだりすることがあったときいたので、配慮が必要。 <p>【Eグループ 入所施設・通所系】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(GWで実際困っていた事業所があることわかり)地域で困っている事業所あることがわかれば、助けることができたのではと思っている。 <p>【Fグループ 地域包括・居宅介護支援・相談支援・医療・訪問系】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要配慮者への対応に地域との連携強化。 ・冬季を想定して暖房機器の手配。 ・避難スペース等の情報収集 <p>【Gグループ 地域包括・居宅介護支援・相談支援・医療・訪問系】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時における障がい者への支援体制(障がい者を地域で支え合う仕組みづくり) ・障がい特性に応じた情報提供方法 ・震災時に「法人職員(福祉職)としての行動」と「地域住民(個人)としての行動」の状況判断は必要。→出勤できない場合は、個人(地域住民)としての行動もあるのではないか。→地域での活動
---	---

手稲区災害研修会グループワークまとめ

日時 平成31年3月19日（火）18:00～

場所 手稲区民センター

第1部

講演「地震発生！！事業所はこれからどうする～あの時、町内会はこう動いていた～」

講師 星置弘星町内会 厚生福祉部長 杉崎 富夫氏

第2部

グループワーク

6 グループに分かれて、今回の公演を聞いたうえで、震災当日のことを振り返り、今後どんなことを備えていったらよいのか見当した。その後いくつかのグループに発表していただいた。グループワークでの話し合い内容は以下のとおり。

震災時の困りごと	災害時の状況や実際の動き	今後の課題
<ul style="list-style-type: none"> * 停電の為に信号がついていないなど道路状況が悪い、また公共交通機関が動いていなかった為、職員が出勤できなかった。 * 停電だったので事業所が開所できなかった。 * 学校や事業所が通常通りにやっているのかわからなかった。 * 事業所を営業して良いのか判断に迷った。 * 停電の為にPC、携帯等が使えず全ての情報が入ってこなかった * 携帯電話、固定電話が繋がらず利用者さん、職員同士の安否 	<ul style="list-style-type: none"> * 停電等で仕事にならなかったため、職員は自宅待機。 * 数日間、事業所は閉所。その間職員で利用者様の安否確認を実施。電話等が通じない人には実際に訪問した。 * 物などが散乱していたので、災害当日は利用者様の安否確認を行いながら事業所の片づけを実施。 * 断水、停電であり、事業所の営業が出来なかった。 * 区役所などで携帯等の充電をしながら、安否確認を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> * マニュアルの作り直しの検討。 * 利用者様の情報等の紙で見られるようにしておいた方がよい。 * 災害時の安否確認の取り方、利用者様が使っている事業所との連携の仕方。 * 自分の事業所や利用者さんの所属する町内会がどこまで連携が取れ、どのような動きをしているのか知っておきたい。 * 備品の用意 <ul style="list-style-type: none"> ・ラジオ ・ランタン、ライト ・充電器

【手稲区地域部会】

<p>確認がなかなかできなかった。</p> <p>*町内会の避難場所が分からなかった。</p> <p>*利用者様の情報が、書面になっていなかったので情報確認に苦労をした。</p> <p>*ライフラインの把握が難しかった。</p> <p>*札幌市からの情報や状況確認もPCメールで行われたので災害時は見る事ができなかった。</p>	<p>*停電復旧が早かったので、翌日から通常の動きが出来たが、昼食の確保が出来なかった。</p> <p>*災害時のマニュアルがあり、それを元に避難訓練もしていたのでマニュアルに沿って対応した。</p> <p>*職員で手分けして、利用者様の安否確認をしたが他事業所からも共有でサービスを利用している利用者様の状況の様子を伝えてもらい助かった。その後は水や食料品の確保が出来ていない利用者様への対応を行った。</p> <p>*他事業所と連携をとり、札幌市の情報などを共有させてもらった。</p>	<p>•発電機があると良いと思った（研修の話を聞いて）</p> <p>•ストーブ等冬の災害時に必要な備品（冬には必須）</p> <p>*備品としての食料や水の数日分の確保。</p> <p>*札幌市の防災マップを、利用者様全員配布をしてもらいたい。</p> <p>*近隣の事業所との備品や車両の共有ができる体制が取れると良いと思う</p> <p>*部会で手稲区内の災害時に役立つような情報の冊子やマップを作ってもらえたら良いと思う。</p> <p>*手稲区版の緊急連絡先一覧、連絡の優先順位などのフォーマットを作ってもらえるとありがたい。</p> <p>*この規模の震災が冬に合ったらと思うと恐ろしい。冬への震災の対応を考えておかなければと思った。</p> <p>*他事業所がどのような震災の対応策を考えているのかわかり参考になる事が多かったので今後も定期的にこのような機会を持ちたい。</p> <p>*事業所の食料などを放出する形で炊き出し等ができるか</p>
--	---	--

【手稲区地域部会】

		<p>今後検討をしたい。</p> <p>*札幌市からの状況確認や情報提供をPCメールだけではなく別の方法で確認できるようにしてほしい。</p>
--	--	---

【就労支援推進部会】

ほっかいどう いぶりとう ぶ じしん しゅうぎょう せいかつそうだん じぎょうしょ たいおう 北海道胆振東部地震の就業・生活相談事業所の対応

- しんさいじ じぎょうしょ じょうきょうかくにん おこな
・震災時に事業所の状況確認を行った。
- ちいきかつどうしえん うんえい じぎょうしょ とうろくしゃ あんびかくにん
・地域活動支援センターを運営している事業所は登録者の安否確認をメールもしくは
でんわ おこな
は電話で行った。
- ちいきかつどうしえん とうろくしゃ ひなんじょ じょうほう ていきょう
・地域活動支援センター登録者にメールにて避難所の情報を提供した。
- そうだんしゃ さつぼろし きょうぎ ねんい じょうれんらく かたがい あんびかくにん
・相談者には札幌市との協議により1年以上連絡をしていない方以外の安否確認を
でんわ など おこな
電話等で行った。
- しんさいご そうだんしつ ぼうさい かいちゅうでんとうなど お
・震災後、相談室に防災グッズ(ラジオ、懐中電灯等)を置くこととした。
- こんご たいおう む ぼうさい さくせい
・今後の対応に向けて防災マニュアルを作成することとした。

札幌市委託相談支援事業所 非常災害に関するガイドライン

はじめに

北海道胆振東部地震時では、札幌市においても多くの被害をもたらしました。市内のほぼ全域でブラックアウトとなり、地震被害の大きい地域では避難所での生活の長期化を余儀なくされた方がいました。

本地震対応において委託相談支援事業所では様々な工夫や努力で業務が実施されたところです。

ワン・オールでは、委託相談支援事業の皆さまにご協力頂き、本地震における対応と課題についてアンケート調査を実施致しました。（別紙参照）

その中で、非常災害時に適切な対応ができるよう備えておく必要性、想定される業務や平時の取り組みについて、全体での共通指針が必要ではないかとの意見が数多く出ていました。

現在、厚生労働省令及び札幌市条例等において、相談支援事業所は、非常災害対策計画作成の義務付けはありませんが、本地震の振り返りから、今後、何らかの非常災害対策計画作成を検討している事業所は多いかと思えます。その事を踏まえ、ワン・オールではアンケート結果を元に、非常災害に関するガイドライン(案)を作成しました。

本ガイドライン(案)を参考に、今後の非常災害に対する備え、対応について各事業所でご検討頂けると幸いです。

※本ガイドライン作成にあたっての参考

- ・防災に関する自己点検表（札幌市）
<http://www.city.sapporo.jp/shogaifukushi/jiritsushien/jikotenkenhyou.html>
- ・札幌市要配慮者避難支援ガイドライン（札幌市・平成27年3月改定）
<http://www.city.sapporo.jp/hokenfukushi/fukushijosetsu/youhairyosya.html>
- ・社会福祉施設等における非常災害対策計画作成の手引き（北海道）
<http://www.iburi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/syf/s/H30shiryoushi-4.pdf>
- ・地震・水害BCP作成キット（MS&AD）
<http://www.ghkyo.or.jp/ghkyo/2014.08.20.pdf>

1 事業所の状況の確認

事業所のある場所により予測しなければならない災害も異なります。

どのような場所にあるのか、どのような災害の危険があるのか把握しておく必要があります。建物の構造、設備も確認しておきましょう。

- (1) 立地条件（建物へ影響のあるもの）
- (2) 周辺地区の過去の災害発生状況
- (3) 災害危険区域等の該当の有無
- (4) 上記の立地条件から予測される災害の危険性
- (5) 構造・設備

※地域の災害診断に関する参考

- 地震防災マップ（札幌市危機管理対策室）
<http://www.city.sapporo.jp/kikikanri/higoro/jisin/jbmap.html>
- 洪水ハザードマップ（札幌市危機管理対策室）
http://www.city.sapporo.jp/kikikanri/higoro/fuusui/ssh_map.html
- そなえ（札幌市防災アプリ）

2 事業所の連絡体制

(1) 職員間の連絡体制

災害時は夜間休日に関係なく、職員の安否確認・情報交換・招集が速やかに行えるよう、連絡体制を整えておく事が必要です。

災害時には一般電話や携帯電話は繋がりにくくなるので、メール、SNS、LINE等の活用を検討することも大事です。

171「災害伝言ダイヤル」、携帯電話各社の「災害用伝言版サービス」を利用する場合は周知が必要です。

(2) 参集基準の検討

被害が甚大で連絡手段が機能しない場合も想定し、円滑に業務を実施できるよう、事前に参集の基準を作成しておく事が必要です。受託法人と確認しながら事前に作成しておく必要があります。

※参考例

配備体制	配備基準	対象職員
警戒配備体制	①地域に大雨、大雪 暴風雪、高潮、洪水警報が1以上発表されたとき ②地域に震度4又は震度5弱の地震が発生したとき ③地域に津波警報が発表されたとき	•管理者は、事業所へ出勤すること •その他の職員は、自宅待機
災害対策体制	①地域に相当規模の災害の発生が予測され、その対策を要するとき ※注意報、警報発令時において、さらに状況の悪化が見込まれるとき ②避難準備・高齢者等避難開始の発令	•管理者は、事業所へ出勤すること •その他の職員は、家族等の安

【相談支援部会】

	③地域に災害が発生し、その規模及び範囲等から早急な対策を要するとき ④地域に震度5強以上の地震が発生したとき ⑤地域に津波災害が発生し、又は津波災害の発生するおそれがあるとき ⑥その他、総括責任者が必要と認めるとき	全が確保され次第出勤すること
--	--	----------------

3 関係機関との連携に関して

(1) 市障がい福祉課への報告

災害時、事業所が通常業務が困難となったり被災した場合は、市障がい福祉課へ連絡が必要となります。（参考様式～施設の被災状況等報告書）

（市障がい福祉課と連絡がとれない場合、ワン・オールへ連絡）

市障がい福祉課とワン・オールは連携し、市全体の状況を把握し、適宜各委託相談支援事業所と現況を共有します。

(2) 各区での連携について

災害時の区内での連携は不可欠です。委託相談支援事業所、指定相談支援事業所、区保健福祉課、区社会福祉協議会、地域包括支援センター、町内会等の各機関が平時より話し合い、具体的な連携体制を構築、共有しておく事が望まれます。

支援が必要な方にとって、災害発生時に最も重要となるのは、近隣住民の地域住民等の地域における支援活動と言われています。

地域支援員は「災害時要配慮者避難支援活動の推進に協力」と要綱上に記載がある事からも、平時の取り組みについて上記に留意しながら活動していく事が求められています。

※地域での連携に関する参考

- ・災害時支えあいハンドブック（札幌市保健福祉局総務部総務課）

<http://www.city.sapporo.jp/hokenfukushi/fukushijosetsu/documents/honnshyo2.pdf>

- ・あんしんのまちコーディネート事業・事業報告書（札幌市、ワン・オール）

<http://www.city.sapporo.jp/shogai/fukushi/anshinnomati/index.html>

4 災害時業務について

災害時には、安否確認・応急救護など、通常時には行う必要のない特殊な「災害時業務」が発生すると考えられます。あらかじめ、災害時業務について想定し、準備を整え

【相談支援部会】

ておく事が必要です。

～相談支援事業所で想定される災害時業務～

(1) 安否確認について

相談支援事業所利用登録者で災害時に支援が必要な方が多数存在すると思われる。特に、医療依存度の高い方、要介護の必要性が高い方に関しては配慮が必要です。

障がい、福祉サービス利用状況、医療状況、家族状況等からトリアージし、優先的に安否が確認できるよう、名簿を作成し備える事が大切です。

名簿についてはパソコン上の保管と共に、紙ベースでも保管し、迅速に対応できるよう検討しましょう。

また、日頃より当事者、家族に対して、自助、共助の取り組みについて適切な情報提供を行うことが必要です。

※当事者・家族向け参考

- ・防災のことを考えてみませんか ～防災マニュアル（障害当事者の方へ）～
（東京都心身障害者福祉センター）

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/shinsho/saigai/saigaimanual/>

- ・さっぽろ防災ハンドブック（札幌市危機管理対策室）

https://www.city.sapporo.jp/koho/pamphlet/documents/01bosai_handbook.pdf

(2) 避難所等への支援について

避難所を利用される障がい者の方への支援が必要とされる場合があります。

また、障がいにより避難所での生活が難しい方がいる可能性があります。

避難所、福祉避難スペースや福祉避難所について理解を深めておくとともに、災害時には、長期的な支援を視野に入れて、実際に避難所を訪問し実態確認を行ったり、相談先の一つとして連携体制をとる必要がある場合があります。

ただし、相談支援事業所の機能を維持することが優先です。

※避難所に関する参考

- ・避難所運営マニュアル（札幌市保健福祉局総務部総務課）

<http://www.city.sapporo.jp/hokenfukushi/hinanbasyouneimanyuaru.html>

- ・「福祉避難スペース」「福祉避難所」ってなあに？（札幌市保健福祉局総務部総務課）

<http://www.city.sapporo.jp/hokenfukushi/fukushihinanbasyo/fukushihinanbasyo.html>

(3) 災害に関連する相談支援について

災害時には様々な情報提供依頼等の相談が予想されます。（例えば、どこの避難所に避難したら良いか？給水所を教えてください、開設病院を教えてくださいなど）

情報収集を行い、それらの相談に対応する事にも備える必要があります。何が必要な情報なのかを都度、市障がい福祉課やワン・オールに伝えることも大切です。

【相談支援部会】

※災害相談窓口、情報全般に関する参考

- ・平成30年北海道胆振東部地震について（札幌市）

http://www.city.sapporo.jp/kinkyu_20180906.html

- ・生活支援ガイド（札幌市）

<http://www.city.sapporo.jp/kinkyu/seikatsushien/201809/index.html>

5 食料及び避難や誘導に係る非常用資機材の備蓄

行政支援開始の目安となる被災後3日目までは、事業所単独でも業務をできるように必要な備蓄品を検討、準備する事が重要です。

水害の際に備蓄品が濡れてしまう心配がないか、保管場所も確認しましょう。

パソコンが使用できない事態を想定して、どこまで紙ベースで情報を保管しておくのかも検討課題です。

6 支援者自身のこころのケア

どのようなかたちであれ災害に関与した人はすべて何らかの影響をうけます。被災地の現場は混乱しており、ストレスの高い状態が続くため、支援者も心身の変調をきたしがちです。

突然の大きな災害や事故によるストレス反応は「異常な出来事に対する正常な反応」であり、災害や事故の現場でストレスを受けない人はいません。自分だけは大丈夫と過信してはいけません。

支援者は、少しでも役に立ちたいとの思いから、普段以上に気負ったり、無理を重ねることがあり、気づかぬうちにストレスや疲れがたまっていることが多くあります。

また、支援者は被災者を支援することでみずからも傷つくことがあります（二次受傷）。

よりよい支援をおこなうために、まずは支援者自身の安全と健康管理に注意し、自らの状況を整えましょう。

※北九州市災害時障害者サポートマニュアルより抜粋

※災害時のこころのケアに関する参考

- ・心理的応急処置（サイコロジカルファーストエイド）

https://saigai-kokoro.ncnp.go.jp/pdf/who_pfa_guide.pdf

子ども部会 : 防災に対する対応

* 胆振東部地震時の子ども部会の対応 *

○部会における災害時対応指針は未設置である。

→ 今回の災害発生時は、関係部門への情報収集、伝達、周知を行った。

(具体的対応)

- ・ 児童発達支援センター会議（地域マネージャー）に、市内のセンター、児童発達支援事業所、放課後等デイサービス事業所の被害状況の把握、情報提供を依頼する。
→ 清田区、東区で人的被害は無いが、数カ所の事業所での建物の被害報告を受ける。
- ・ 札幌周辺地域での被害状況の把握、情報収集のため、CDSー北海道ブロックに情報提供を依頼する。
→ 安平、厚真地区での子どもの保育、心理的ケアの支援要請を確認した。

◎今後の方向

- ① 自立支援協議会において各専門部会及び地域部会で災害時対応指針の設置が必要である。
- ② 設置、検討の前に、札幌市における災害時対応での自立支援協議会の役割や運営、支援範囲や内容の確認が必要である。
- ③ 各専門部会の役割や運営、支援範囲や内容等のフレームが定まる中で、具体的な内容の項目立てが必要である（情報収集範囲、協力機関範囲、具体的支援内容等）。

へいせい ねんど さっぽろしじりつしえんきょうぎかい ねんかんかつどうほうこくしょ
平成30年度札幌市自立支援協議会年間活動報告書

へんしゅう はっこう さっぽろしじりつしえんきょうぎかい
編集・発行 札幌市自立支援協議会

<http://www.city.sapporo.jp/shogai/fukushi/tiikijiritusien/tiikijiritusien.html>

